

2018年度 修士論文

学齡期のスポーツ参画経験と成人期以降の直接観戦の関係

—直接観戦行動の持ち越し効果の検討—

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科

スポーツ科学専攻 スポーツビジネス研究領域

5017A033-1

菅原 尚子

研究指導教員： 武藤 泰明 教授

## 目次

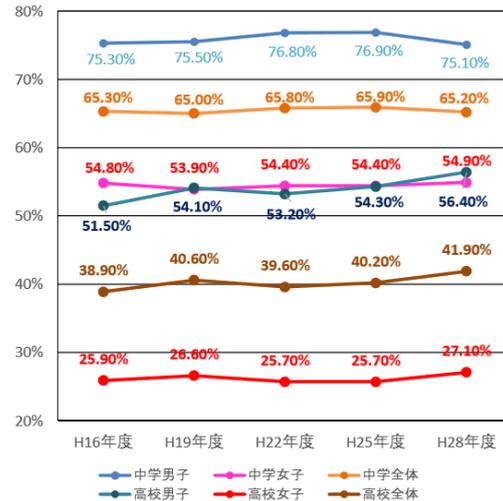
1. 緒言 .....	1
1-1 スポーツ参画人口 .....	1
1-2 持ち越し効果 .....	2
1-3 再社会化 .....	5
2. 研究目的 .....	6
3. 研究1 .....	8
3-1 調査方法 .....	9
3-2 調査項目 .....	9
3-3 分析方法 .....	10
3-4 結果 .....	11
3-4-1 基本統計量 .....	11
3-4-2 学齢期の実施経験と直接観戦行動および意向 .....	12
3-4-3 学齢期の実施経験と直接観戦頻度 .....	13
3-4-4 学齢期の実施経験と潜在的な直接観戦意向 .....	14
3-5 小括 .....	16
4. 研究2 .....	17
4-1 調査方法 .....	17
4-2 調査項目 .....	17
4-3 分析方法 .....	19

4-4 結果 .....	20
4-4-1 基本統計量 .....	20
4-4-2 学齡期の実施経験と直接観戦行動および意向 .....	23
4-4-3 学齡期の実施・観戦経験と直接観戦行動および意向 .....	26
4-4-4 学齡期の実施・観戦経験による傾向分析(学齡期からの継続パターン別) .....	27
4-4-5 学齡期の実施・観戦経験による傾向分析(年代別) .....	30
4-4-6 学齡期の実施・観戦経験による傾向分析(観戦経験時期別) .....	33
4-5 小括 .....	35
5. 考察 .....	36
6. 研究の限界 .....	40
注 .....	42
引用・参考文献 .....	43
付録 .....	49
謝辞 .....	62

# 1. 緒言

## 1-1 スポーツ参画人口

文部科学省スポーツ庁は「第2期スポーツ基本計画(2017年3月)」<sup>1)</sup>において、今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策として、「スポーツ参画人口の拡大」を掲げている。また、その具体的な施策として「国は、『する』『みる』『ささえる』スポーツの楽しみ方や関わり方等をわかりやすく提案し、「誰もがライフステージに応じてスポーツに親しむ機会の充実を図る」ことが示されている。



(出典) 教育基本調査並びに(公財)日本中学校体育連盟、(公財)全国高等学校体育連盟及び(公財)日本高等学校体育連盟の調査を基にスポーツ庁において作成

図1 運動部参加率の推移

スポーツ参画行動のうち「する(実施)」指標のひとつである運動部参加人数を確認すると、平成28年度は中学男子で1,273,413人、中学女子で887,818人が運動部活動に参加している<sup>2)</sup>。これは当該年齢人口の75.1%と54.9%を占め(図1)、平成16年度以降はほぼ横ばいで推移しており、2018年度現在で20~30代の過半数が学齢期に実施(する)という形でスポーツに触れた経験があるとわかる。

しかし、学齢期に運動部活動等に参加していても、成人期にかけてスポーツ活動から離脱していく傾向が指摘されている。鈴木<sup>3)</sup>は1994年度時点における都道府県体育協会加盟団体への登録競技者数が当該年代人口に占める割合を年代別に比較し、中学期(35.1%)および高校期(29.1%)を境に大学期(7.0%)または社会人期(1.9%)で大幅に減少することを示した。表1は、2007年から2016年における各中央競技団体の登録競技者数を集計したものであるが、例えばバ

スケートボールでは中学校期に1学年あたり平均で83,301人が(公財)日本バスケットボール協会へ競技者登録を行っているものの、中学校期から高校期の間で38.2%、さらに高校期から大学期の間で91.6%が減少する傾向にあった。本集計は新規登録者や非進学者を考慮しておらず、また中央競技団体への登録を行わずに活動している者が一定数存在することを念頭に置く必要があるが、学齢期にスポーツ参画した者が成人期への過程で離脱していく実状が推察される。この傾向は登録競技者数を公開しているその他の種目についても、その人数の多寡によらず同様に観察された。

表1 学年あたりの平均登録競技者数および前期比 ※1 : 公表資料(2007~2016年)等より筆者が作成 (人)

	小学校期		中学校期		高校・高専期		大学期		成人期 ※2	
	n	%	N	%	n	%	n	%	n	%
(公財)日本バスケットボール協会	24,993	-	83,301	233.3	51,486	-38.2	4,332	-91.6	2,344	-45.9
(公財)日本バレーボール協会	17,875	-	55,068	208.1	37,362	-32.2	3,891	-89.6	1,050	-73.0
(公財)日本サッカー協会	27,194	-	54,607	100.8	84,071	54.0	-	-	15,252	-81.9
(公財)日本ハンドボール協会	234	-	6,444	2657.7	11,996	86.1	935	-92.2	1,184	26.6
(公財)日本ラグビーフットボール協会	3,166	-	4,137	30.7	9,273	124.2	3,064	-67.0	1,727	-43.6
(公社)日本アメリカンフットボール協会	96	-	281	194.1	1,403	398.6	2,436	73.7	223	-90.9
(公財)日本アイスホッケー連盟	397	-	348	-12.3	365	4.7	874	139.7	0	-
その他平均(団体球技種目以外) ※3	1,619	-	15,771	874.3	10,435	-33.8	1,426	-86.3	462	-67.6

※1 例 中学校期の場合、小学校期が前期となる。{(当期-前期)/前期}により算出。

※2 学齢期該当者を除く18歳~20代。ただし、(公財)日本サッカー協会は大学期の選手を含む。

※3 (公財)日本オリンピック委員会、(公財)日本体育協会、(特非)日本ワールドゲームズ協会に加盟、準加盟している団体のうち公式ホームページ上で登録競技者数を公表していた計16団体。(公財)日本陸上競技連盟、(公財)日本水泳連盟ほか

## 1-2 持ち越し効果

「持ち越し効果」とは、「過去の値が将来の値に影響することや、他者との相対的順位が継続的に維持される傾向」<sup>4)5)</sup>を指し、主に健康スポーツの領域で研究が行われている。これまでは、主に実施行動(する)の観点から、学齢期の運動経験が現在の体力や身体活動量、またはスポーツ参

加行動に及ぼす影響について検証が重ねられている。岡<sup>6)</sup>は、2000年以降に諸外国で報告された研究に関する Telama<sup>4)</sup>の整理を引用し、スポーツ参加率が低く生活環境の変化が多い女性では持ち越し効果が見られない場合もあるが、男性では比較的多くの研究において持ち越し効果が認められていることを示した。また鈴木<sup>7)</sup>は、過去の運動経験や習慣と現在の体力には直接的な関係はなく、現在の運動習慣を介することで相関関係が確認されることを示し、以降は運動習慣の持ち越しに関する研究が行われている<sup>8)-13)</sup>。

観戦経験(みる)から実施行動(する)への観点では、2012年に開催されたロンドン五輪の際に「浸透効果(trickle-down effect)<sup>14)</sup>」が提唱され、検証が行われている。これは、トップレベルの試合観戦が実施行動の開始または頻度増加に与える効果とされ<sup>15)</sup>、15歳以上を対象とした調査においては若年齢者ほど効果が大きいことが報告されている<sup>16)</sup>。

以上より、「する」「みる」「ささえる」のそれぞれについて、過去の経験と現在の行動との関係性を検証した先行研究を整理すると、実施経験(する)と成人期以降の実施行動(する)またはスポーツボランティア行動(ささえる)<sup>5)</sup>、もしくは観戦経験(みる)と実施行動(する)との関係については検証が行われている(図2)。しかし、学齢期の実施(する)または観戦経験(みる)と、成人期以降の観戦行動(みる)との関係については検証されていない(図2の太線部分)。

(一社)日本トップリーグ連携機構に加盟するリーグ運営団体が試合会場で実施した観戦者調査(表2)によると、観戦者の一定割合を当該競技種目の実施経験者が占めていることがわかる。リーグによってその割合に差はあるが、競技種目の実施経験者というセグメントを設定した上で、現在の直接観戦行動や今後の直接観戦意向<sup>注1)</sup>を検証することは、観戦機会の提供主体であるリー

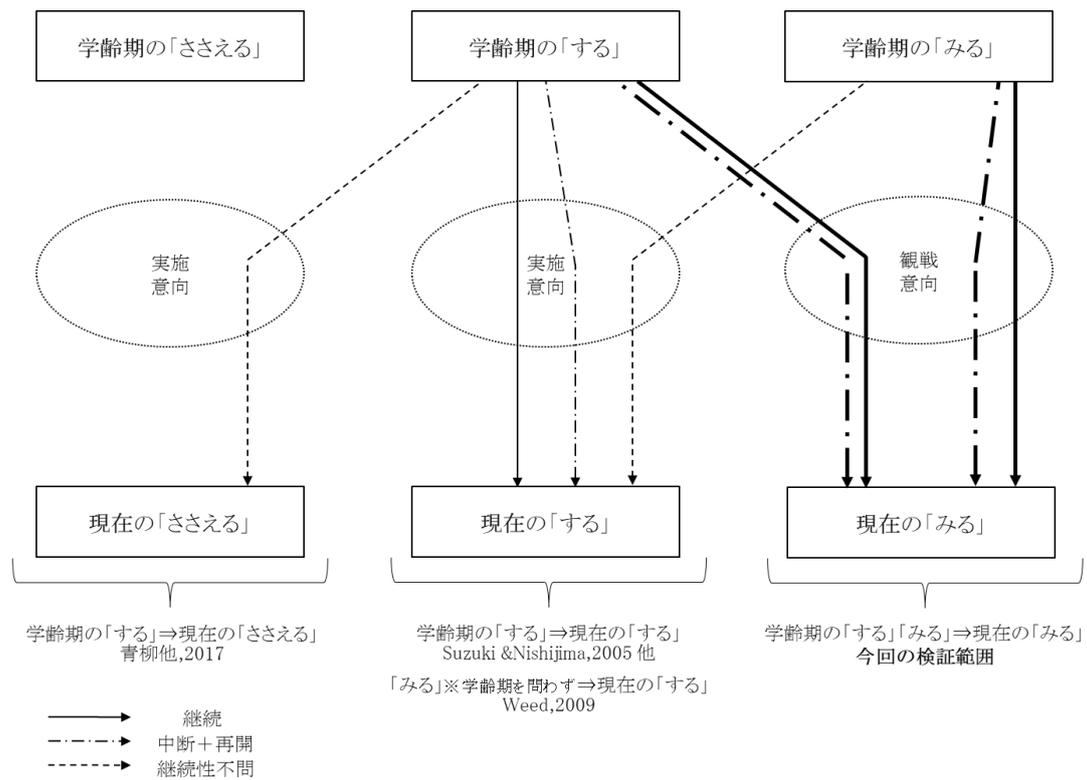


図 2 先行研究と今回の検証範囲の整理

グやチームが集客施策を検討する際に参考となり得ると考える。また、先行する観戦者調査研究を概観すると、実施経験に関する設問には「部活動などで」と学齢期が意識された文言が多い一方で、直接観戦経験を設問に含む研究<sup>17)-20)</sup>では、それらは「既存マーケット」や「リピーター」を識別することを目的とした「最近の」経験が意識されている。学齢期の複数年間を費やす実施行動と比較し、直接観戦行動は提供される機会の回数が限られることから、特に学齢期においてはスポーツ参画の中でも実施(する)が重視される傾向にあることが推察される。しかし、家計調査<sup>21)</sup>によると、1世帯当たりのスポーツ観覧支出額(年間)は、2002年時点の593円から2007年には674円、2017年では774円と微増傾向にある。入場料が無料の場合や高額チケットの出現を念頭に置く必要はあるが、各競技団体がトップレベルの選手によるリーグ戦の興行を推進し、直接観戦機会が増えつつある現在では、実施経験はないが直接観戦経験のある層が増えることが想定される。試合会場

や応援スタイル等の観戦イメージが記憶として残っている観戦経験者は、初回来場者と比較し心理的コスト<sup>22)</sup>は低いと考えられる。そのため、観戦機会の提供主体であるリーグやチームは、顧客のターゲティングにあたり学齢期の実施経験だけでなく、直接観戦経験にも着目する必要がある。

表 2 団体系球技リーグの観戦者における当該種目実施経験者の割合 (%)

リーグ名称(調査年)	実施中	経験有り	定期的に 継続有り	不定期だが 継続有り	経験無し
Jリーグ(2015年)	9.6	28.6	-	-	61.8
うち J1(2015年)	10.2	29.5	-	-	60.3
うち J2(2015年)	8.1	28.8	-	-	63.1
なでしこリーグ(2015年)		8.7	-	22.1	69.2
ラグビートップリーグ(2016年)	4.9	17.6	-	-	77.4
Vリーグ男子(2014年) ※	-	-	36.3	16.2	47.5
Vリーグ女子(2014年) ※	-	-	35.0	18.3	46.7
WJBL(2006年)	-	74.5	-	-	25.5
日本ハンドボールリーグ(2006年)	-	50.5	-	-	49.5
Jアイスリーグ(2006年)	-	21.3	-	-	78.7
日本ソフトボールリーグ(2006年)	-	66.2	-	-	33.8

※質問文に「クラブ・部活動で」等の限定文言なし。

### 1-3 再社会化

スポーツに関する社会化の分類として「スポーツへの社会化 (socialization into sport)」と「スポーツによる社会化 (socialization via sport)」という2つの概念が存在する。「スポーツへの社会化」とは「スポーツの技術や知識、規範、スポーツに対する態度、価値などを内面化することによって、その集団や社会に相応しいスポーツ的行動様式を身に付けていくこと<sup>23)</sup>」であり、1970年代より研究が蓄積されている<sup>24)-26)</sup>。他方「スポーツによる社会化」とは、「スポーツを通じてその集団や社会の価

値や役割、望ましい行動様式を学習していくこと<sup>23)</sup>」であり、スポーツによる影響度の実証困難性を課題として検討が行われている<sup>27)28)</sup>。Kenyon and McPherson<sup>29)</sup>は、他の分野における社会化が幼少期のみならず生涯に渡って起こることに触れ、前述の 2 分類に加え「スポーツの再社会化 (Sport resocialization)」を提示した。これは、「ライフスタイルが変化し、個人が新しい社会的役割をもったときに起こる、価値、行動、役割の再学習の過程<sup>30)31)</sup>」と定義される。国内では、高齢者のスポーツ活動に関する研究の中で、老年学の「離脱説 (disengagement theory)」と「継続説 (continuity theory)」に加え、「再社会化説」による説明が検討されている<sup>32)33)</sup>ほか、競技者<sup>34)</sup>や女性<sup>35)</sup>、身体障害者<sup>36)</sup>等を対象とした

研究が行われている。また、原田<sup>31)</sup>は過去・現在・未来のスポーツ実施状況をもとに高齢者のスポーツ実施に関する分析的枠組みを示し(図 3)、パターン

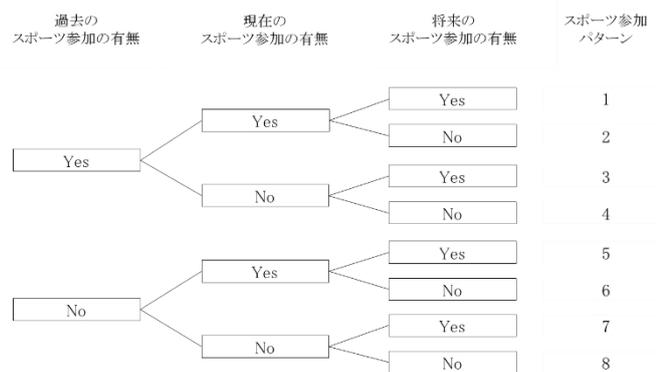


図 3 高齢者のスポーツ参加(実施)パターン

ン 3(離脱-潜在的再社会化)および7

(潜在的再社会化)が将来のスポーツ実施の潜在性が高い群であると指摘した。これら社会学の分野においても研究対象は実施行動(する)であるが、直接観戦行動(みる)を対象とする際にもスポーツ参画者のライフステージを考慮すべきであり、スポーツ参画の中断を想定し再開を促す視点が必要だと考える。

## 2. 研究目的

本研究の目的は、直接観戦行動の「持ち越し効果」の有無とその傾向を確認することである。本

研究における直接観戦行動の持ち越し効果とは、「学齢期にスポーツ実施または直接観戦を経験することで、成人期以降の直接スポーツ観戦行動および直接スポーツ観戦意向について、非経験者と比較し相対的に高い値が観察される傾向」とする。団体球技種目の実施行動に関する先行研究では、過去の同一種目経験の影響<sup>9)13)</sup>が指摘されており、本研究においても現在の直接観戦行動の対象となる競技種目と、学齢期における実施または直接観戦経験の対象となる競技種目の同一性に着目し検証を行う。また、スポーツの再社会化説に基づき、スポーツ参画を一定期間中断した後に直接観戦行動を再開したケースを検証の観点に含める。検証にあたり、仮説として以下の4点を置く。

[仮説1]学齢期にスポーツまたは同一種目の実施経験が有る群は、無い群と比較し、成人期以降の当該種目リーグの直接観戦行動率および意向保有率<sup>注2</sup>が高い。

[仮説2]学齢期に同一種目の直接観戦経験が有る群よりも、実施経験が有る群の方が、成人期以降の直接観戦行動率および意向保有率は高い。

[仮説3-1]仮説1の傾向は、学齢期以降に行動を中断した場合も維持される。

[仮説3-2]仮説2の傾向は、学齢期以降に行動を中断した場合も維持される。

仮説1および2の検証により直接観戦行動における持ち越し効果の有無を確認し、仮説3の検証ではその結果を踏まえ直接観戦行動の再社会化群の存在を確認する。なお仮説2については、1-1-2より直接観戦行動に関する先行研究では学齢期のスポーツ参画の中で実施経験が重視される傾向にあること、また表2より団体系球技リーグの観戦者に当該種目の実施経験者が一定数存在することから、「直接観戦経験」よりも「実施経験」を優位とした。いずれについても、仮説を軸に探索的に検証を進め、その傾向を把握する。

本研究における直接観戦の定義は、テレビ視聴による観戦を含まず、スタジアムやアリーナ等の試合会場で観戦することとした。直接観戦の対象は、全国的に観戦環境が整備されている団体球技種目のトップリーグとした。具体的には、(一社)日本トップリーグ連携機構に参画しているリーグのうち、2017 年末時点で前身のリーグを含め 50 年以上のリーグ戦開催実績を有する、Jリーグ(男子サッカー)、Bリーグ(男子バスケットボール)<sup>注 3</sup>、WJBL(女子バスケットボール)、Vリーグ(男女バレーボール)、トップリーグ(男子ラグビー)、および前述の条件を満たすプロ野球(男子野球)とした。

検証対象者は、学齢期の参画経験と成人期以降の直接観戦行動間の傾向を検証するため、日本における一般的な大学卒業年齢を 22 歳と想定し、23 歳以上の回答者とした。仮説 2 および 3 では学齢期の直接観戦経験を確認することから、小学校入学当時に検証対象リーグ(前身のリーグを含む)が存在していた 58 歳以下の回答者を対象とした。仮説 3 の焦点となる再社会化に関する先行研究では主な対象者は 50 歳以上となっているが<sup>31)-33)</sup>、スポーツマスターズ大会の参加者を対象とした調査<sup>11)</sup>において、成人期以降に競技を開始または再開始した年齢がそれぞれ 30.2 歳と 31.0 歳だったことから、前述した条件以外は回答者の年齢による絞り込みは行わなかった。なお、利用するデータが「職業」に関する設問を有している場合は、回答が「学生」であるものを除き分析を行った。

### 3. 研究1

研究 1 では、仮説 1 に対する検証を行う。

### 3-1 調査方法

本研究では、公益財団法人笹川スポーツ財団による「スポーツ・ライフデータ(2016.以降,「データ①」とする.)」,および株式会社インテージによる「スポーツ観戦に関する調査(自主企画調査,2016)」の結果データ(以降,「データ②」とする.)を二次利用した。これらはいずれも学齢期のスポーツ実施経験の有無(具体的な種目名を含む)と,直近1年間におけるスポーツ直接観戦行動の有無,および今後の直接観戦意向の有無に関する項目を設けており,有用であると判断した。さらに,データ②はデータ①と比較し回答標本数が多く,データ①で得た結果の再現性を確認できること,またデータ①が保有していない「トップリーグ(男子ラグビー)」に関する項目を設けていることから有用であると判断した。

### 3-2 調査項目

データ①は,全国の市区町村から都市規模および人口構成比を考慮し無作為抽出された18歳以上の男女を対象に,2016年6月から7月にかけて行われた質問紙調査(訪問留置法)により取得され,回収数は3,000件であった(付録1)。学齢期の実施経験に関する設問は「小学生時代」から「大学生時代(高専・短大含む)」までの各期について,「1.どこにも加入していなかった」「2.学校の運動部・体育会運動部」「3.その他のサークル・クラブ」から複数を選択したうえで,2または3を選択した場合は「主に実施していた種目」を1つずつ記入する形式であった。現在の直接観戦行動に関する設問は,「あなたは,過去1年間に競技場やグラウンドなどで,直接スポーツの試合を観戦したことがありますか」の有無を2件法で回答したうえで,観戦した内容を提示されたリーグまたは種目名称から複数選択し,それぞれに対し「直近1年間の直接観戦回数」を記入する形式であった。今後の直接観戦意向に関する設問は,「今後,直接観戦してみたい種目(現在観戦して

いて今後も継続して観戦したい種目も含めて)」を、提示されたリーグまたは種目名称から複数選択する形式であった。なお、提示されたリーグ名称には「プロ野球(NPB)」「Jリーグ(J1, J2, J3)」「プロバスケットボール(bjリーグ)」を含み、直接観戦意向に関する設問には「今後直接観戦したい種目はない」が含まれる。

データ②は、全国の都道府県から性・年代別の人口構成比を考慮し無作為抽出された株式会社インテージの登録モニターを対象に、2016年3月に行われたWEB調査により取得され、回収数は312,891件であった(付録2)。学齢期の実施経験に関する設問は、「あなたご自身が学校の部活動や地域スポーツクラブ・スポーツ少年団などで競技・プレイしたことのあるスポーツ」を提示された種目より複数選択する形式であった。現在の直接観戦行動および今後の直接観戦意向に関する設問は、「最近1年以内で、あなたがスタジアム・競技場やアリーナで生観戦したことがあるプロスポーツ」および「生観戦したいプロスポーツ」を、提示されたリーグまたは種目名称から複数選択する形式であった。なお、提示されたリーグ名称には「プロ野球(NPB・セパ12球団)」「サッカー(Jリーグ)」「ラグビー(トップリーグ)」「バスケットボール(bjリーグ, NBL)」を含み、実施経験に関する設問では「スポーツ・運動系の活動経験はない」が、現在の直接観戦行動および今後の直接観戦意向に関する設問では「あてはまるものはない」が選択肢に含まれる。

いずれのデータについても、社会人口統計項目として「年齢」「性別」を用いた。

### 3-3 分析方法

データ①およびデータ②を用い、検証の観点に応じて区分したセグメントに対して「学齢期のスポーツ実施経験の有無」と、「現在のスポーツ直接観戦行動の有無」または「今後の直接観戦意向の有無」をクロス集計し、 $\chi^2$ 検定を行った。また、連続変数である「観戦回数」に関する分析では t

検定を行った。統計解析には、IBM SPSS Statistics Version 25 を用いた。

### 3-4 結果

#### 3-4-1 基本統計量

データ①で提供された 3,000 件のうち、23 歳以上かつ「職業」が「学生」でない有効回答数は 2,775 件であり、属性(表 3)は男性が 49.4%、女性が 50.6%であった。データ②では 312,891 件が提供され、有効回答数は 299,684 件、属性(表 3)は男性が 49.5%、女性が 50.5%であった。また、データ①およびデータ②いずれにおいても男性で 80%程度、女性では 70%程度の回答者が学齢期にスポーツ実施経験が有ると回答した。

表 3 対象者の属性

	データ①		データ②			データ①		データ②	
	N	%	N	%		N	%	N	%
全体	2,775	—	299,684	—	学齢期の実施経験	2,096	75.5	228,104	76.1
男性	1,370	49.4	148,358	49.5	男性(有り)	1,114	81.3	121,591	82.0
女性	1,405	50.6	151,326	50.5	女性(有り)	982	69.9	106,513	70.4
年齢					男性×野球	372	27.2	55,413	37.4
23～29 歳	261	9.4	41,952	14.0	男性×サッカー	247	18.0	34,769	23.4
30～39 歳	498	17.9	68,762	22.9	バスケットボール ※	334	12.0	51,472	17.2
40～49 歳	567	20.4	68,569	22.9	男性×バスケットボール	162	11.8	23,778	16.0
50～59 歳	469	16.9	68,731	22.9	女性×バスケットボール	172	12.2	27,694	18.3
60～69 歳	553	19.9	51,670	17.2	バレーボール	377	13.6	54,031	18.0
70 歳以上	427	15.4	—	—	男性×バレーボール	111	8.1	194,66	13.1
最終学歴					女性×バレーボール	266	18.9	34,565	22.8
中学校	210	7.6			男性 × ラグビー	29	2.1	5,738	3.9
高校	1,174	42.3							
短大・高専・専門	649	23.4	No data						
大学・大学院	673	24.3							
その他・無回答	69	2.5							

※ 「ミニバス」を含む。

### 3-4-2 学齢期の実施経験と直接観戦行動および意向

データ①のうち、小学校期から大学期までのいずれかに、何らかの種目について「2. 学校の運動部・体育会運動部」「3. その他のサークル・クラブ」での実施経験があると回答した者を「学齢期の実施経験有り」とし、学齢期の実施経験の有無と、検証対象である「プロ野球(NPB)」「Jリーグ(J1, J2, J3)」「プロバスケットボール(bjリーグ)」の過去1年間における直接観戦行動の有無についてクロス集計を行った(表4)。その結果、全体では学齢期の実施経験有り群の22.1%が過去1年間に直接観戦を行っているのに対し、無し群では11.6%であり、学齢期の実施経験の有無による有意差が認められた[ $\chi^2(1) = 35.944, p < .001$ ]。この傾向は男性[ $\chi^2(1) = 10.685, p = .001$ ]および女性[ $\chi^2(1) = 18.996, p < .001$ ]においても同様に有意であった。対象リーグに対する今後の直接観戦意向の有無についても、全体では学齢期の実施経験有り群の42.9%が直接観戦意向を有するのに対し、無し群では27.5%であり、学齢期の実施経験の有無による有意差が認められた[ $\chi^2(1) = 51.036, p < .001$ ]。この傾向は男性[ $\chi^2(1) = 16.389, p < .001$ ]および女性[ $\chi^2(1) = 19.340, p < .001$ ]においても同様に有意であった。

次に、「プロ野球」「Jリーグ(サッカー)」「bjリーグ(バスケットボール)」で行われている種目と同一種目の学齢期の実施経験の有無と、対象リーグに対する過去1年間の直接観戦行動の有無についてクロス集計を行った。「野球」と「サッカー」は学齢期の女性の実施経験者が少ないため、「プロ野球」および「Jリーグ」は対象者を男性に限定し集計を行った。その結果、「プロ野球」と「Jリーグ」では直接観戦行動[プロ野球;  $\chi^2(1) = 51.829, p < .001$ , Jリーグ;  $\chi^2(1) = 45.937, p < .001$ ]および直接観戦意向[プロ野球;  $\chi^2(1) = 47.607, p < .001$ , Jリーグ;  $\chi^2(1) = 51.129, p < .001$ ]、「bjリーグ」では直接観戦意向[ $\chi^2(1) = 151.039, p < .001$ ]について、学齢期の実施経験の有無による有意差が

認められ、仮説1は概ね支持された。「bjリーグ」における直接観戦行動に関する集計では、有意確率は1%未満であったが、クロス集計表の全体セル数のうち25.0%のセルで、期待度数が5未満となった(最小期待度数=2.77)。期待度数は、クロス集計表における観察値の行および列合計の比率により算出される(4-3;式1)、対象セルに該当することが期待される度数であるが、本検定で用いられる $\chi^2$ 分布において近似の妥当性を担保するための許容値とされる20.0%<sup>37)</sup>を上回ったことから統計的有意差は認められなかった。

表4 学齢期の実施経験と直接観戦行動および意向 (％は行に対する)

学齢期の 実施経験	直接観戦行動(直近1年間)					直接観戦意向					
	有り		無し		$\chi^2$ 値	有り		無し		$\chi^2$ 値	
	n	%	n	%		n	%	n	%		
全体 (n=2,775)	有り	464	22.1	1,632	77.9	35.944***	900	42.9	1,196	57.1	51.036***
	無し	79	11.6	600	88.4		187	27.5	492	72.5	
男性 (n=1,370)	有り	286	25.7	828	74.3	10.685*	574	51.5	540	48.5	16.389***
	無し	41	16.0	215	84.0		96	37.5	160	62.5	
女性 (n=1,405)	有り	178	18.1	804	81.9	18.996***	326	33.2	656	66.8	19.340***
	無し	38	9.0	385	91.0		91	21.5	332	78.5	
男性 ×プロ野球	有り(野球)	114	30.6	258	69.4	51.829***	203	54.6	169	45.4	47.607***
	無し(野球)	137	13.7	861	86.3		340	34.1	658	65.9	
男性 ×Jリーグ	有り(サッカー)	44	17.8	203	82.2	45.937***	73	29.6	174	70.4	51.129***
	無し(サッカー)	59	5.3	1,064	94.7		131	11.7	992	88.3	
男女 ×bjリーグ	有り(バスケット)	9	2.7	325	97.3	16.081**	57	17.1	277	82.9	151.039***
	無し(バスケット)	14	0.6	2,427	99.4		62	2.5	2,379	97.5	

\*\*\* p < .001, \*\* p < .01 だが期待度数5未満のセルが20%以上, \* p < .05

### 3-4-3 学齢期の実施経験と直接観戦頻度

学齢期の実施経験の有無による直近1年間の直接観戦回数差について、回答者がそれぞれ

単一の群に属し各々の群が独立している際に用いる対応の無い t 検定を行った(表 5)。その結果、何らかの種目について「学齢期のスポーツ実施経験」が有る群は、過去 1 年間に検証対象である「プロ野球(NPB)」「Jリーグ(J1, J2, J3)」「プロバスケットボール(bjリーグ)」のいずれかを平均で 2.90 回直接観戦しているのに対し、無し群は 2.43 回であり、学齢期のスポーツ実施経験の有無による有意差は認められなかった[t(540)=.925 , p=.356]。この傾向は男性[t(324)=1.371 , p=.171]および女性[t(214)=-.650 , p=.516]においても同様であった。種目別にみると「プロ野球」の平均観戦回数は、「学齢期の実施経験(野球)有り」群が 2.84 回に対し、無し群では 2.20 回であり、学齢期の実施経験の有無による有意差は認められなかった[t(248)=1.199 , p=.232]。この傾向は「Jリーグ(サッカー)」「bjリーグ(バスケットボール)」についても同様であった。

表 5 学齢期の実施経験と直接観戦回数

	学齢期のスポーツ 実施経験	直接観戦回数(直近1年間)			
		度数	平均回数	標準偏差	t 値(自由度)
全体	有り	463	2.90	4.360	.925(540)
	無し	79	2.43	2.668	
男性	有り	285	3.19	5.026	1.371(324)
	無し	41	2.10	1.882	
女性	有り	178	2.44	2.959	-.650(214)
	無し	38	2.79	3.306	
男性 ×プロ野球	有り(野球)	113	2.84	5.937	1.199(248)
	無し(野球)	137	2.20	1.870	
男性 ×Jリーグ	有り(サッカー)	43	3.33	4.633	.031(100)
	無し(サッカー)	59	3.07	3.764	
男女 ×bjリーグ	有り(バスケットボール)	9	4.33	9.631	.949(8.024)
	無し(バスケットボール)	14	1.29	.469	

#### 3-4-4 学齢期の実施経験と潜在的な直接観戦意向

データ①より標本数の多いデータ②を用い、3-4-2と同様の検証を行った。「あなたご自身が

学校の部活動や地域スポーツクラブ・スポーツ少年団などで競技・プレイしたことがあるスポーツ」で「スポーツ・運動系の活動経験はない」を選択した者を「学齢期の実施経験無し」、その他を「実施経験有り」とし、学齢期における何らかの種目の実施経験の有無と検証対象である「プロ野球(NPB・セパ 12 球団)」「サッカー(Jリーグ)」「ラグビー(トップリーグ)」「バスケットボール(bjリーグ, NBL)」の過去1年間の直接観戦行動の有無についてクロス集計を行った(表 6)。その結果、全体では学齢期の実施経験有り群の 20.4%が過去1年間に直接観戦を行っているのに対し、無し群では 10.1%であり、学齢期の実施経験の有無による有意差が認められた[ $\chi^2(1) = 3875.195$ ,  $p < .001$ ]。この傾向は男性[ $\chi^2(1) = 2310.175$ ,  $p < .001$ ]および女性[ $\chi^2(1) = 925.895$ ,  $p < .001$ ]においても同様に有意であり、データ①による検証結果を裏付ける結果となった。

「生観戦したいプロスポーツ」が有ると回答した者のうち、当該リーグに対する「過去1年間の直接観戦」が無い群(図4のB部分)を「直接観戦意向(潜在)有り」とし、学齢期の実施経験の有無と対象リーグに対する

		生観戦したいスポーツ(直接観戦意向)	
		有	無
直接観戦(直近1年間)	有	【A】	【C】
	無	【B】	【D】

直接観戦意向(潜在)の有無についてクロス集計を行

図4 直接観戦意向(潜在)の集合イメージ

った。その結果、全体では学齢期の実施経験有り群の 24.9%が潜在的に直接観戦意向を有しているのに対し、無し群では 12.3%であり、学齢期の実施経験の有無による有意差が認められた[ $\chi^2(1) = 4448.487$ ,  $p < .001$ ]。この傾向は男性[ $\chi^2(1) = 2365.910$ ,  $p < .001$ ]および女性[ $\chi^2(1) = 1424.021$ ,  $p < .001$ ]についても同様であった(表 6)。さらに、「プロ野球」「Jリーグ(サッカー)」「bjリーグ(バスケットボール)」「トップリーグ(ラグビー)」で行われている種目と同一種目の学齢期の実施経験の有無と、対象リーグに対する直接観戦意向(潜在)の有無についてクロス集計を行った場合

も同様に有意差が認められた。

表 6 学齢期の実施経験と直接観戦行動および意向(潜在) (%は行に対する)

※	学齢期の 実施経験	直接観戦行動(直近1年間)					直接観戦意向(潜在)				
		有り		無し		$\chi^2$ 値	有り		無し		$\chi^2$ 値
		N	%	N	%		N	%	N	%	
全体	有り	46,435	20.4	181,669	79.6	3875.195***	45,146	24.9	136,523	75.1	4448.487***
(n=299,684)	無し	7,251	10.1	64,329	89.9		7,891	12.3	56,438	87.7	
(n=245,998)											
男性	有り	30,097	24.8	91,494	75.2	2310.175***	27,683	30.3	63,811	69.7	2365.910***
(n=148,358)	無し	3,009	11.2	23,758	88.8		3,452	14.5	20,306	85.5	
(n=115,252)											
女性	有り	16,338	15.3	90,175	84.7	925.895***	17,463	19.4	72,712	80.6	1424.021***
(n=151,326)	無し	4,242	9.5	40,571	90.5		4,439	10.9	36,132	89.1	
(n=130,746)											
男性	有り(野球)	14,319	25.8	41,094	74.2	4377.914***	12,974	31.6	28,120	68.4	3563.321***
×プロ野球	無し(野球)	11,503	12.4	81,442	87.6		13,591	16.7	67,851	83.3	
男性	有り(サッカー)	4,547	13.1	30,222	86.9	3248.815***	5,385	17.8	24,837	82.2	2621.001***
×Jリーグ	無し(サッカー)	5,080	4.5	108,509	95.5		8,493	7.8	100,016	92.2	
男女	有り(バスケット)	1,206	2.3	50,266	97.7	1889.055***	3,730	7.4	46,536	92.6	5464.544***
×bjリーグ	無し(バスケット)	1,176	0.5	247,036	99.5		4,059	1.6	242,977	98.4	
男性	有り(ラグビー)	524	9.1	5,214	90.9	3315.888***	1,093	21.0	4,121	79.0	3417.840***
×トップリーグ	無し(ラグビー)	1,194	0.8	141,426	99.2		5,495	3.9	135,931	96.1	

\*\*\* p < .001

※ 上段が直接観戦行動, 下段が直接観戦意向(潜在)に関する集計の n 数を示す。

### 3-5 小括

研究 1 では, 仮説 1 に対してデータ量の異なる 2 種のデータを用いて  $\chi^2$  検定による検証を行った。その結果, 過去 1 年間の直接観戦行動および今後の直接観戦意向について, 学齢期の実施経験の有無による有意差が認められた。この傾向は, 対象リーグで行われている種目と同一種目

の実施経験によって集計した場合も同様に有意であり、仮説 1 は概ね支持された。また、直接観戦意向がある者のうち過去 1 年間に直接観戦を行っていない潜在的な観戦者についても学齢期の実施経験の有無による有意差が認められた。一方で直接観戦回数については、有意差は確認されなかった。

## 4. 研究2

研究 2 では、仮説 2, 仮説 3-1 および 3-2 に対する検証を行う。

### 4-1 調査方法

本研究では、一般社団法人日本バレーボールリーグ機構による独自調査(2018)の結果データ(以降、「データ③」とする。)を二次利用した。本データには、学齢期のスポーツ実施経験および種目と、直近 1 年間の国内スポーツリーグの観戦行動および意向に加え、学齢期における国内スポーツリーグの直接観戦経験と各行動の継続性に関する情報が含まれており、仮説 2, 仮説 3-1 および 3-2 の検証に有用であると判断した。なお本データは、データ①およびデータ②が保有する団体球技系スポーツリーグに加え、「WJBL(女子バスケットボール)」「Vリーグ(男女バレーボール)」に対する直近 1 年間の直接観戦行動と直接観戦意向、学齢期における直接観戦経験とその継続性に関する情報を有する。

### 4-2 調査項目

データ③は、性・年代別に均等割付を行い無作為抽出されたインターネット調査会社登録モニターを対象に、2018年5月に行われたWEB調査により取得され、有効回答数は2,060件であった(付録 3)。学齢期の実施経験に関する設問は、小学校期から大学期のそれぞれについて「学校

の部活動または地域のサークルやクラブチームで実施していた(※マネージャー、トレーナー等のスタッフとして関わっていた場合も含む)」種目のうち実施期間が最も長かったものを、提示された種目名から1つ選択する形式であった。なお、最終学歴を特定するため、高校期および大学期については選択肢に「在学歴なし」が設けられた。学齢期の直接観戦経験に関する設問は、「競技場や体育館などで直接観戦したことがある(前身のリーグを含みます)」リーグを、小学校期から大学期のそれぞれについて提示されたリーグ名称から複数選択する形式であった。

現在の直接観戦行動に関する設問は「学生時代から継続して、1シーズンあたり1回以上は競技場や体育館などで直接観戦している」「過去2年間について、1シーズンあたり1回以上は競技場や体育館などで直接観戦している」「過去1年間に、競技場や体育館などで直接観戦したことがある」、直接観戦意向に関する設問は「競技場や体育館などで直接観戦してみたい」「近い将来(1年以内)に、競技場や体育館などで直接観戦したい」について、提示されたリーグ名称から複数選択する形式であった。なお、提示されたリーグ名称には「NPB(男子プロ野球)」「Jリーグ(男子プロサッカー)」「Bリーグ(男子プロバスケットボール)」「WJBL(女子バスケットボール)」「Vリーグ(男子バレーボール)」「Vリーグ(女子バレーボール)」「トップリーグ(男子ラグビー)」を含み、いずれの設問にも「該当なし」が含まれた。現在のスポーツ実施行動に関する設問は、「学生時代から継続して月1回以上の頻度で実施している」「過去1年間に、月1回以上の頻度で実施した」、今後の実施意向に関する設問は「今後実施してみたい」「近い将来(1年以内)に実施してみたい」に対し、提示された種目名から複数選択する形式であった。なお、提示された種目名には「野球」「サッカー」「バスケットボール」「バレーボール」「ラグビー」が含まれた。社会人口統計項目としては「年齢」「性別」「家族構成(未既婚×子どもの有無)」を用いた。

### 4-3 分析方法

データ③を用い検証の観点に応じて区分したセグメントに対し、「学齢期のスポーツ実施経験の有無」または「学齢期のスポーツ直接観戦経験の有無」と、「現在のスポーツ直接観戦行動の有無」または「今後の直接観戦意向の有無」をクロス集計し、 $\chi^2$  検定および残差分析による有意差検定を行った。残差分析は、クロス集計結果の各セルについて期待値と観察値の残差を算出し、 $\chi^2$  検定の有意差に寄与したセルを判定する分析方法である<sup>38)</sup>。クロス集計結果が表 7 で表される場合、A 群 I 行のセルの期待値 E である  $E_{AI}$  は式 1 で求められる。

$$E_{AI} = MT_I * MT_A / T \quad \dots \text{式 1}$$

A 群 I 行のセルの観察値 X を  $X_{AI}$  とすると、当該セルの残差  $R_{AI}$  は  $X_{AI} - E_{AI}$  となり、残差 R を標準正規分布に従う形に変換した標準化残差  $R_{sAI}$  は式 2 で表される。

$$R_{sAI} = R_{AI} / \sqrt{E_{AI}} \quad \dots \text{式 2}$$

標準化残差  $R_{sAI}$  を、各セル間の比較に用いるためにより標準正規分布に近似するよう  $R_{sAI}$  の分散  $\sigma_{sAI}$  を用いて式 4 により調整したものが調整済み標準化残差  $R_{aAI}$  である。

$$\sigma_{sAI} = (1 - MT_I / T) * (1 - MT_A / T) \quad \dots \text{式 3}$$

$$R_{aAI} = R_{sAI} / \sqrt{\sigma_{sAI}} = R_{AI} / (\sqrt{E_{AI}} * \sqrt{\sigma_{sAI}}) \quad \dots \text{式 4}$$

表 7 クロス集計表サンプル

	A 群	B 群	C 群	合計
I	$X_{AI}$	$X_{BI}$	$X_{CI}$	$MT_I$
II	$X_{AII}$	$X_{BII}$	$X_{CII}$	$MT_{II}$
合計	$MT_A$	$MT_B$	$MT_C$	T

$R_{aAI}$  の 95.0% は絶対値 1.96 の範囲に正規分布することから、本研究では調整済み標準化残差を算

出し、絶対値 1.96 を基準として有意差に寄与したセルを判定し検証を行った。なお、リーグ単位に区分した集計等で、期待度数 5 未満のセルが許容値とされる 20.0%を上回る場合は、分別して掲載した。本データは、1 名の回答者に対し複数のリーグまたは種目について、現在の直接観戦行動および意向と、学齢期の直接観戦経験および実施経験を調査しているため、1 件の回答に対し 7 リーグ (Vリーグは男女を分別し、2 リーグとして扱った。)分のレコードを作成し、のべ人数による分析を行った。

統計解析には、IBM SPSS Statistics Version 25 を用いた。

#### 4-4 結果

##### 4-4-1 基本統計量

データ③で提供された 2,060 件のうち、23 歳以上 58 歳以下であり、かつ「職業」が「学生」ではない有効回答数は 1,485 件であり、属性(表 8)は男性が 49.1%、女性が 50.9%であった。また、男性のうち 64.5%、女性では 48.7%の回答者が学齢期にスポーツ実施経験が有ると回答した。学齢期にスポーツ実施経験が有る群の割合がデータ①およびデータ②と比較が少ないが、これは設問に対する選択肢が具体的な種目名に加え「9.左記以外の球技種目」「10.球技を除くスポーツ種目」「11.該当なし／授業以外の運動実施はない」と細分化されており、具体的に表示された種目以外の実施経験者が選択肢の煩雑さから「11.該当なし」を選択した可能性が考えられる。設問設計段階での課題となるが、観戦経験に関する設問においても条件は同等であり、かつ本検証の対象種目は選択肢として具体的に表示されていることから、検証継続に問題はないと判断した。

表 8 対象者の属性

	データ③			データ③	
	N	%		N	%
全体	1,485	-	学齢期の実施経験	838	56.4
男性	729	49.1	男性(有り)	470	64.5
女性	756	50.9	女性(有り)	368	48.7
年齢			男性 × 野球	182	25.0
23～29 歳	309	20.8	男性 × サッカー	127	17.4
30～39 歳	402	27.1	バスケットボール ※2	143	9.6
40～49 歳	403	27.1	男性 × バスケットボール	69	9.5
50～58 歳	371	25.0	女性 × バスケットボール	74	9.8
最終学歴 ※1			バレーボール	146	9.8
中学校	314	21.1	男性 × バレーボール	44	6.0
高校	400	27.0	女性 × バレーボール	102	13.5
短大・高専・専門	-	-	男性 × ラグビー	24	3.3
大学・大学院	771	51.9			
その他・無回答	-	-			

※1 「高校期」「大学期」に関する設問における「在学歴なし」の  
選択数により集計。

※2 「ミニバス」を含む。

小学校期から大学期のいずれかにおける「対象リーグで行われる種目の実施経験の有無」および「直接観戦経験の有無」によって対象者を 4 群に分類し、「学齢期の実施観戦分類」とした(表 9)。現在の直接観戦行動に関するセグメント設定には、トランスセオレティカルモデル(Transtheoretical Model)を応用した飯島ら<sup>39)</sup>による枠組みを参考にした。飯島らはスポーツ直接観戦行動の変容ステージを「前熟考(無関心)期」「熟考(関心)期」「準備期」「実行期」「維持期」に分類し検証を行ったうえで、直接観戦行動においては「実行期」から「維持期」への移行障壁が低いと考えられることから、これらを集約してもよいと結論付けた。本研究では飯島らが用いた設問の文言とデータ③取得時の設問の文言を対応させ、未選択を「無関心期」、「競技場や体育館などで直接観戦してみたい」および「近い将来(1 年以内)に、競技場や体育館などで直接観戦したい」を「関心期」、「過去 1 年間に、競技場や体育館などで直接観戦したことがある」を「準備期」、「過去 2

年間について、1シーズンあたり1回以上は競技場や体育館などで直接観戦している」を「実行期」と定義した。なお研究1で、学齢期の実施経験の有無を検証の観点とした場合は直接観戦回数について有意差が認められないことが確認されたため、直接観戦回数によって分別していた「準備期」と「実行期」を集約し、いずれも「実行期」に含めて検証を行った。「学生時代から継続して、1シーズンあたり1回以上は競技場や体育館などで直接観戦している」は飯島ら<sup>39)</sup>が用いた設問には含まれていない内容であったため、「継続期」と定義し区別した。

現在の実施行動に関するセグメント設定についても同様に、未選択を「無関心期」、「今後実施してみたい」および「近い将来(1年以内)に実施してみたい」を「関心期」、「過去1年間に、月1回以上の頻度で実施した」を「実行期」とし、飯島ら<sup>39)</sup>による設問には含まれていない「学生時代から継続して月1回以上の頻度で実施している」は「継続期」と定義した。

表9 学齢期の実施観戦分類と現在の行動変容ステージに関する基本統計量

	プロ野球		Jリーグ		Bリーグ		WJBL		Vリーグ(男子)		Vリーグ(女子)		トップリーグ	
	n	%	n	%	n	%	N	%	n	%	n	%	n	%
実施観戦分類														
実施有×観戦有	113	7.6	53	3.6	9	0.6	4	0.3	15	1.0	12	0.8	10	0.7
実施無×観戦有	195	13.1	68	4.6	10	0.7	13	0.9	19	1.3	12	0.8	12	0.8
実施有×観戦無	84	5.7	89	6.0	134	9.0	139	9.4	131	8.8	134	9.0	18	1.2
実施無×観戦無	1,093	73.6	1,275	85.9	1,332	89.7	1,329	89.5	1,320	88.9	1,327	89.4	1,445	97.3
行動変容ステージ(直接観戦)														
継続期	70	4.7	21	1.4	0	0.0	2	0.1	2	0.1	1	0.1	2	0.1
実行期	54	3.6	40	2.7	14	0.9	1	0.1	3	0.2	6	0.4	6	0.4
関心期	175	11.8	142	9.6	46	3.1	18	1.2	48	3.2	61	4.1	43	2.9
無関心期	1,186	79.9	1,282	86.3	1,425	96.0	1,464	98.6	1,432	96.4	1,417	95.4	1,434	96.6
行動変容ステージ(実施)														
継続期	33	2.2	21	1.4	8	0.5	8	0.5	6	0.4	6	0.4	2	0.1
実行期	28	1.9	41	2.8	14	0.9	14	0.9	20	1.3	20	1.3	9	0.6
関心期	21	1.4	27	1.8	31	2.1	31	2.1	23	1.5	23	1.5	2	0.1
無関心期	1,403	94.5	1,396	94.0	1,432	96.4	1,432	96.4	1,436	96.7	1,436	96.7	1,472	99.1

本研究では、行動変容ステージの「継続期」を「学生時代から継続して」と定義しているため、回答者の最終学歴が行動変容ステージの判定に影響する(図 5)。例えば、高校期に 1 度直接観戦経験があり、かつ 20 歳時から現在に至るまで 1 シーズンあたり 1 回以上の直接観戦を継続している 25 歳の回答者であっても、20 歳時点で大学在学中であった者は「継続期」に該当するが、最終学歴が高校卒業で 20 歳時点では会社員として勤務していた場合は「学生時代から継続」に該当しないため、「実行期」に分類した。実施行動についても、直接観戦行動と同様に判定した。

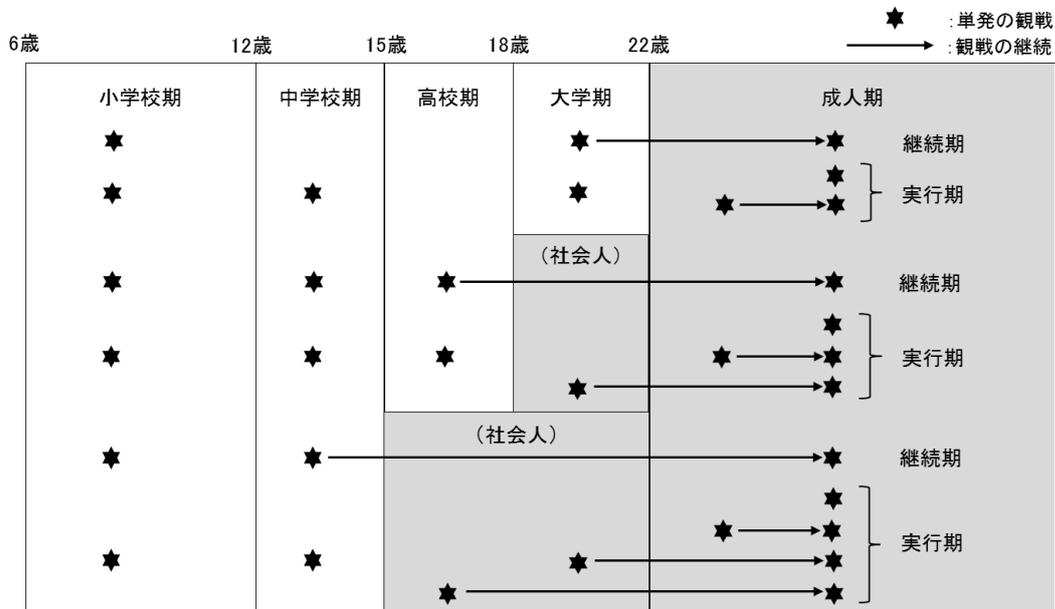


図 5 最終学歴による「継続期」と「実行期」の判定

#### 4-4-2 学齢期の実施経験と直接観戦行動および意向

仮説 2 および 3 の検証の前提として、データ③を用いた仮説 1 の検証を行った。小学校期から大学期(高校期および大学期は「在学歴なし」を除く。)までのすべての期において、「学校の部活動または地域のサークルやクラブチームで実施していた(※マネージャー、トレーナー等のスタッフとして関わっていた場合も含む)」について「該当なし/授業以外の運動実施はない」を選択した

者を、当該種目の「学齢期の実施経験無し」とし、学齢期における何らかの種目の実施経験の有無と、検証対象である「NPB(男子プロ野球)」「Jリーグ(男子プロサッカー)」「Bリーグ(男子プロバスケットボール)」「WJBL(女子バスケットボール)」「Vリーグ(男子バレーボール)」「Vリーグ(女子バレーボール)」「トップリーグ(男子ラグビー)」の過去1年間における直接観戦行動の有無についてクロス集計を行った。その結果、全体では学齢期の実施経験有り群の 18.4%が過去1年間に直接観戦を行っているのに対し、無し群では 6.5%であり、学齢期の実施経験の有無による有意差が認められた[ $\chi^2(1) = 45.020, p < .001$ ]。この傾向は男性[ $\chi^2(1) = 35.169, p < .001$ ]および女性[ $\chi^2(1) = 6.648, p = .01$ ]においても同様に有意であり、データ①による検証結果を裏付ける結果となった。「学齢期の実施経験の有無」と、対象リーグに対する「今後の直接観戦意向の有無」についても、全体では学齢期の実施経験有り群の 41.1%が今後の直接観戦意向を有するのに対し、無し群では 17.5%であり、学齢期の実施経験の有無による有意差が認められた[ $\chi^2(1) = 95.331, p < .001$ ]。この傾向は男性[ $\chi^2(1) = 67.050, p < .001$ ]および女性[ $\chi^2(1) = 24.144, p < .001$ ]においても同様に有意であった。さらに、「プロ野球(野球)」「Jリーグ(サッカー)」における直接観戦行動と、「トップリーグ(ラグビー)」を除く6リーグ(「Bリーグ」と「WJBL」, 「Vリーグ」の男女は同一種目であることから合算して集計。)の直接観戦意向についても、同様に有意差が認められた。

次に、仮説 3-1 である「仮説 1 の傾向は、学齢期以降に行動を中断した場合も維持される」を検証するため、前述の集計を実施行動の継続期群を除外したうえで行った(表 10)。その結果、直接観戦行動に関する全体集計では、学齢期の実施経験有り群の 14.3%が過去1年間に直接観戦を行っているのに対し、無し群では 6.3%であり、学齢期の実施経験の有無による有意差が認められた[ $\chi^2(1) = 23.088, p < .001$ ]。直接観戦意向についても、学齢期の実施経験有り群の 37.3%が

今後の直接観戦意向を有するのに対し、無し群では 17.3%であり、学齢期の実施経験の有無による有意差が認められた[ $\chi^2(1) = 66.967, p < .001$ ]. この傾向は性別による集計においても同様に有意であり、対象リーグごとの集計では、「プロ野球」における直接観戦行動と、「トップリーグ(ラグビー)」を除く6リーグの直接観戦意向について学齢期の実施経験の有無による有意差が認められ、仮説 3-1 は概ね支持された。

表 10 学齢期の実施経験と直接観戦行動(実行動の継続期群除外) (％は行に対する)

	学齢期の実施経験	直接観戦行動(直近1年間)					直接観戦意向				
		有り		無し		$\chi^2$ 値	有り		無し		$\chi^2$ 値
		N	%	N	%		N	%	N	%	
全体 (n=1,355)	有り	103	14.3	616	85.7	23.088***	268	37.3	451	62.7	66.967***
	無し	40	6.3	596	93.7		110	17.3	526	82.7	
男性 (n=629)	有り	64	17.0	312	83.0	18.373***	155	41.2	221	58.8	45.662***
	無し	14	5.5	239	94.5		40	15.8	213	84.2	
女性 (n=726)	有り	39	11.4	304	88.6	4.660*	113	32.9	230	67.1	20.650***
	無し	26	6.8	357	93.2		70	18.3	313	81.7	
男性 ×プロ野球 (n=699)	有り(野球)	28	18.4	124	81.6	22.918***	59	38.8	93	61.2	27.293***
	無し(野球)	33	6.0	514	94.0		102	18.6	445	81.4	
男性 ×Jリーグ (n=710)	有り(サッカー)	9	8.3	99	91.7	5.312**	30	27.8	78	72.2	17.564***
	無し(サッカー)	21	3.5	581	96.5		74	12.3	528	87.7	
男女 ×B/WJBL (n=1,477)	有り(バスケ)	8	5.9	127	94.1	35.638**	17	12.6	118	87.4	26.874***
	無し(バスケ)	7	0.5	1,335	99.5		44	3.3	1,298	96.7	
男女 ×Vリーグ (n=1,479)	有り(ハレー)	3	2.1	137	97.9	6.019**	22	15.7	118	84.3	31.308***
	無し(ハレー)	6	0.4	1,333	99.6		59	4.4	1,280	95.6	
男性 ×トップリーグ (n=727)	有り(ラグビー)	1	4.5	21	95.5	9.429**	7	31.8	15	68.2	47.917**
	無し(ラグビー)	2	0.3	703	99.7		21	3.0	684	97.0	

\*\*\* p < .001, \*\* p < .001 または p < .05 だが期待度数 5 未満のセルが 20%以上, \*p < .05

#### 4-4-3 学齢期の実施・観戦経験と直接観戦行動および意向

本項では、データ③を用いて仮説 2 の検証を行った。仮説 2 は、「学齢期に同一種目の直接観戦経験が有る群よりも、実施経験が有る群の方が、成人期以降の直接観戦行動率および意向保有率は高い」である。

表 9 に基本統計量を示した学齢期の実施観戦分類と、直接観戦行動の変容ステージについてクロス集計を行った(表 11)。全体集計において統計的に有意差が認められた[ $\chi^2(6) = 2283.055, p < .001$ ]ため、調整済み標準化残差による残差分析を行った。

「継続期または実行期」群においては、学齢期に実施および観戦の両経験の有る(実施有×観戦有)群の調整済み標準化残差が 30.6(31.9%)、実施経験は無いが観戦経験が有る(実施無×観戦有)群では 23.6(20.7%)と、他の 2 群と比較し割合が有意に高い傾向が認められた。「関心期」群においては、「実施有×観戦有群」が 14.6(26.9%)、「実施無×観戦有」群では 19.8(28.9%)と 2 群間では順位が逆転するものの、他の 2 群と比較し割合が有意に高い傾向が「継続期または実行期」群と同様に認められた。この傾向は性別の集計においても同様に有意であり、両経験が有る群(実施有×観戦有)を除外して比較した場合、学齢期に同一種目の直接観戦経験が有る群(実施無×観戦有)よりも、実施経験が有る群(実施有×観戦無)の方が、成人期以降の直接観戦行動率および意向保有率は低い傾向が確認され、仮説 2 は支持されなかった。

表 11 学齢期の実施観戦分類と現在の直接観戦行動 (％は列に対する／残差は調整済み標準化残差)

	実施有×観戦有			実施無×観戦有			実施有×観戦無			実施無×観戦無			$\chi^2$ 値
	N	%	残差	N	%	残差	N	%	残差	N	%	残差	
全体(のべ)													2283.055***
継続期+実行期	69	31.9	30.6	68	20.7	23.6	19	2.6	0.9	66	0.7	-26.6	
関心期	58	26.9	14.6	95	28.9	19.8	66	9.1	5.0	314	3.4	-20.8	
無関心期	89	41.2	-29.5	166	50.5	-30.0	644	88.3	-4.7	8,741	95.8	32.6	

	実施有×観戦有			実施無×観戦有			実施有×観戦無			実施無×観戦無			χ <sup>2</sup> 値
	N	%	残差	N	%	残差	N	%	残差	N	%	残差	
男性(のべ)												1517.616***	
継続期+実行期	60	34.3	25.9	42	20.6	15.9	13	3.4	0.8	26	0.6	-22.5	
関心期	47	26.9	12.9	64	31.4	16.9	37	9.6	3.9	125	2.9	-18.7	
無関心期	68	38.9	-26.1	98	48.0	-23.4	334	87.0	-3.7	4,189	96.5	28.9	
女性(のべ)												618.559**	
継続期+実行期	9	22.0	10.7	26	20.8	17.8	6	1.7	0.3	40	0.8	-12.6	
関心期	11	26.8	6.5	31	24.8	10.4	29	8.4	3.1	189	4.0	-9.9	
無関心期	21	51.2	-11.1	68	54.4	-18.0	310	89.9	-2.9	4,552	95.2	15.0	
男性×NPB												231.148***	
継続期+実行期	41	39.4	10.3	24	19.5	3.5	3	3.8	-2.0	9	2.1	-8.7	
関心期	25	24.0	2.9	42	34.1	6.7	13	16.7	0.5	27	6.4	-7.5	
無関心期	38	36.5	-9.7	57	46.3	-8.0	62	79.5	1.0	388	91.5	12.3	
男性×Jリーグ												137.592**	
継続期+実行期	12	26.1	6.5	10	30.3	6.5	6	7.4	0.9	11	1.9	-7.7	
関心期	14	30.4	4.6	9	27.3	3.2	9	11.1	0.2	44	7.7	-4.5	
無関心期	20	43.5	-7.8	14	42.4	-6.7	66	81.5	-0.7	514	90.3	8.5	
男女×B/WJBL												423.446**	
継続期+実行期	4	30.8	14.5	4	17.4	10.7	5	1.8	2.9	4	0.2	-8.9	
関心期	3	23.1	5.2	5	21.7	6.5	13	4.8	3.1	43	1.6	-5.9	
無関心期	6	46.2	-11.3	14	60.9	-10.8	255	93.4	-4.1	2,614	98.2	9.4	
男女×Vリーグ												306.627**	
継続期+実行期	4	14.8	11.9	3	9.7	8.2	2	0.8	0.9	3	0.1	-7.1	
関心期	7	25.9	6.2	6	19.4	4.7	25	9.4	5.2	71	2.7	-8.2	
無関心期	16	59.3	-9.7	22	71.0	-7.1	238	89.8	-5.3	2,573	97.2	10.1	
男性×トップリーグ												154.452**	
継続期+実行期	1	12.5	4.6	1	10.0	4.1	1	6.3	3.1	1	0.1	-6.7	
関心期	4	50.0	7.1	4	40.0	6.3	3	18.8	3.3	15	2.2	-9.3	
無関心期	3	37.5	-8.4	5	50.0	-7.4	12	75.0	-4.3	679	97.7	11.1	

\*\*\* p < .001, \*\* p < .001 または p < .01 だが期待度数 5 未満のセルが 20% 以上  
1.96|調整済み標準化残差|のセルに色付け

#### 4-4-4 学齢期の実施・観戦経験による傾向分析(学齢期からの継続パターン別)

仮説 3-2 は「仮説 2 の傾向は、学齢期以降に行動を中断した場合も維持される」だが、前項の検証の結果、仮説 2 は支持されなかった。表 11 より両経験が有る群(実施有×観戦有)を除外して比較した場合に、学齢期に対象となるリーグの直接観戦経験が有る群(実施無×観戦有)の方

が、当該種目の実施経験が有る群(実施有×観戦無)よりも成人期以降の直接観戦行動率および意向保有率は高い傾向が確認されたため、以下の仮説を新たに設定し追加検証を行った。

[仮説3-3]学齢期に同一種目の実施経験が有る群よりも、直接観戦経験が有る群の方が、成人期以降の直接観戦行動率および意向保有率が高い傾向は、学齢期以降に行動を中断した場合も維持される。

表 9 に基本統計量を示した学齢期の実施観戦分類と、直接観戦行動の変容ステージについてのクロス集計を、直接観戦行動または実行動の継続性に関する条件を設定したうえで行った(表 12)。いずれの条件を設定した場合でも全体集計において統計的に有意差が認められたため、調整済み標準化残差による残差分析を行った。その結果、実施または直接観戦行動の継続期群を除外した場合においても、学齢期に同一種目の直接観戦経験が有る群(実施無×観戦有)の方が、実施経験が有る群(実施有×観戦無)と比較し、直接観戦行動の「実行期」および「関心期」に該当する者の割合が有意に高い傾向が認められ、仮説 3-3 は支持された。

表 12 学齢期の実施観戦分類と現在の直接観戦行動 (％は列に対する／残差は調整済み標準化残差)

	実施有×観戦有			実施無×観戦有			実施有×観戦無			実施無×観戦無			χ <sup>2</sup> 値
	N	%	残差	N	%	残差	N	%	残差	N	%	残差	
全体(のべ)													2283.055***
継続期+実行期	69	31.9	30.6	68	20.7	23.6	19	2.6	0.9	66	0.7	-26.6	
関心期	58	26.9	14.6	95	28.9	19.8	66	9.1	5.0	314	3.4	-20.8	
無関心期	89	41.2	-29.5	166	50.5	-30.0	644	88.3	-4.7	8,741	95.8	32.6	
直接観戦行動の継続期群 除外													1114.792***
実行期	14	8.7	8.8	25	8.7	11.9	19	2.6	3.6	66	0.7	-12.5	
関心期	58	36.0	17.8	95	33.2	21.7	66	9.1	4.9	314	3.4	-22.1	
無関心期	89	55.3	-20.1	166	58.0	-25.0	644	88.3	-6.1	8,741	95.8	25.6	
実行動の継続期群 除外													1882.334***
継続期+実行期	40	24.0	21.4	68	20.7	25.8	16	2.3	0.9	66	0.7	-23.4	
関心期	49	29.3	14.5	95	28.9	20.2	59	8.5	4.4	314	3.4	-20.2	
無関心期	78	46.7	-23.9	166	50.5	-31.1	619	89.2	-4.3	8,741	95.8	29.9	

	実施有×観戦有			実施無×観戦有			実施有×観戦無			実施無×観戦無			χ <sup>2</sup> 値
	N	%	残差	N	%	残差	N	%	残差	N	%	残差	
実施または直接観戦行動の継続期群 除外												1044.925***	
実行期	10	7.3	6.8	25	8.7	12.3	16	2.3	3.0	66	0.7	-11.4	
関心期	49	35.8	16.5	95	33.2	22.1	59	8.5	4.3	314	3.4	-21.2	
無関心期	78	56.9	-18.0	166	58.0	-25.5	619	89.2	-5.2	8,741	95.8	24.3	
実施かつ直接観戦行動の継続期群 除外												1915.427***	
実行期	44	23.0	21.6	68	20.7	25.3	19	2.6	1.4	66	0.7	-23.7	
関心期	58	30.4	15.9	95	28.9	19.8	66	9.1	5.0	314	3.4	-21.2	
無関心期	89	46.6	-25.3	166	50.5	-30.6	644	88.3	-5.1	8,741	95.8	30.9	
実施行動の継続期または実行期群 除外												1663.282***	
継続期+実行期	32	21.9	19.3	59	19.2	24.5	15	2.3	1.3	62	0.7	-21.8	
関心期	42	28.8	13.8	87	28.3	19.8	48	7.2	3.1	305	3.4	-18.5	
無関心期	72	49.3	-22.0	161	52.4	-29.9	603	90.5	-3.3	8,679	95.9	27.4	

\*\*\* p < .001, 1.96>調整済み標準化残差のセルに色付け

学齢期の実施観戦分類と、直接観戦行動の変容ステージについてのクロス集計を、男女別または年代別(学齢期の実施観戦分類の比率が類似していた 20・30 代と 40・50 代に区分)に行った。全体集計において統計的に有意差が認められたため、調整済み標準化残差による残差分析を行った。その結果、直接観戦行動の変容ステージが「継続期」、「実行期」または「関心期」に該当する者の割合について、男性と比較し女性の方が(図 6)、また、40・50 代と比較し 20・30 代の方が(図 7)、「実施有×観戦有」群と「実施無×観戦有」群間の調整済み標準化残差の差分が大きい傾向にあった。観戦機会の提供という観点で他リーグに先行しているNPBやJリーグでは、「カープ女子」や「セレ女」、SNSを用いた広報活動等、女性や 30 代以下を対象とした集客施策が観察される。これらの層では学齢期に実施経験が無くても直接観戦経験が有る群が、現在も直接観戦に対する関心を持っている可能性が高く、その他リーグがNPBまたはJリーグの先行事例を参考にする際には研究 2 の結果は一考の余地がある。

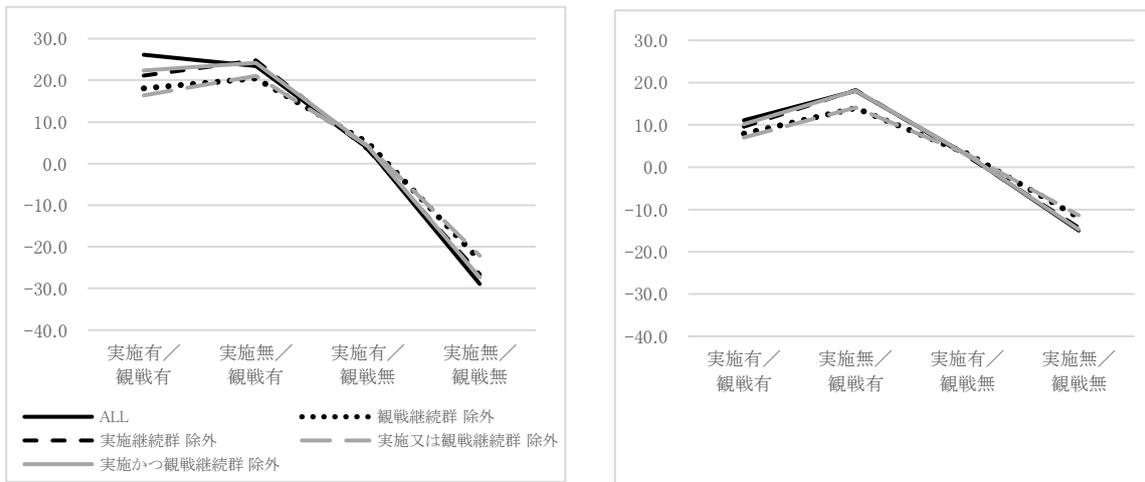


図 6 調整済み標準化残差の比較 (学齢期の実施観戦分類×現在の直接観戦行動:関心期以上) 左:男性, 右:女性

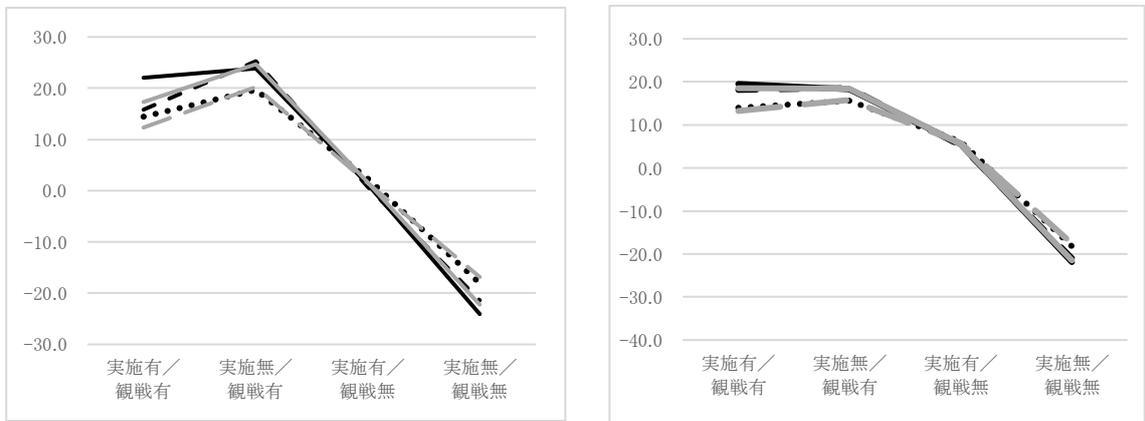


図 7 調整済み標準化残差の比較 (学齢期の実施観戦分類×現在の直接観戦行動:関心期以上) 左:20-30代, 右:40-50代

#### 4-4-5 学齢期の実施・観戦経験による傾向分析(年代別)

学齢期の実施観戦分類ごとに、直接観戦行動の変容ステージと年代のクロス集計を行った(表13)。男性では、学齢期の観戦経験が無い群(実施有×観戦無;実施無×観戦無)において10%水準で有意差が認められ、調整済み標準化残差による残差分析の結果、「実施有×観戦無」群において30代の割合が有意に低く、50代の割合が有意に高い傾向が認められた。一方で観戦経験がある群(実施有×観戦有;実施無×観戦有)では有意差は認められず、学齢期に実施(する)よりも直接観戦(みる)を経験することで成人後も年代を問わず直接観戦に興味を持ち続ける可能性

が示唆された。なお女性については、いずれのケースも有意差は認められなかった。

表 13 学齢期の実施観戦分類ごとの、現在の直接観戦行動と年代 (％は列に対する／残差は調整済み標準化残差)

	20代(23歳以上)		30代		40代		50代		χ <sup>2</sup> 値	p値
	N	上:％ 下:残差	N	上:％ 下:残差	N	上:％ 下:残差	N	上:％ 下:残差		
男性									8.987	<.05
関心期以上 ※	90	8.8	105	7.6	94	6.7	125	9.7		
		0.9		-0.9		-2.2		2.3		
無関心期	932	91.2	1,281	92.4	1,306	93.3	1,170	90.3		
		-0.9		0.9		2.2		-2.3		
<b>実施有×観戦有</b>									.520	=.915
関心期以上	27	61.4	31	57.4	28	63.6	21	63.6		
		0.0		-0.7		0.4		0.3		
無関心期	17	38.6	23	42.6	16	36.4	12	36.4		
		0.0		0.7		-0.4		-0.3		
<b>実施無×観戦有</b>									1.935	=.586
関心期以上	25	55.6	39	56.5	23	45.1	19	48.7		
		0.5		0.9		-1.1		-0.5		
無関心期	20	44.4	30	43.5	28	54.9	20	51.3		
		-0.5		-0.9		1.1		0.5		
うち直接観戦行動の継続期群 除外									1.308	=.727
関心期以上	15	42.9	30	50.0	18	39.1	16	44.4		
		-0.2		1.0		-0.9		0.0		
無関心期	20	57.1	30	50.0	28	60.9	20	55.6		
		0.2		-1.0		0.9		0.0		
<b>実施有×観戦無</b>									13.540	<.01
関心期以上	10	13.0	6	5.0	15	15.0	19	22.1		
		0.0		-3.2		0.7		2.8		
無関心期	67	87.0	115	95.0	85	85.0	67	77.9		
		0.0		3.2		-0.7		-2.8		
うち実施行動の継続期群 除外									15.660	<.01
関心期以上	8	11.6	3	2.8	13	13.5	18	21.2		
		-0.1		-3.4		0.6		3.1		
無関心期	61	88.4	103	97.2	83	86.5	67	78.8		
		0.1		3.4		-0.6		-3.1		
<b>実施無×観戦無</b>									26.216	<.0001
関心期以上	28	3.3	29	2.5	28	2.3	66	5.8		
		-0.4		-2.0		-2.6		5.0		
無関心期	828	96.7	1,113	97.5	1,177	97.7	1,071	94.2		
		0.4		2.0		2.6		-5.0		

	20代(23歳以上)		30代		40代		50代		$\chi^2$ 値	p 値
	N	上:% 下:残差	N	上:% 下:残差	N	上:% 下:残差	N	上:% 下:残差		
女性									2.348	=.503
関心期以上	69	6.0 -0.6	104	7.3 1.5	89	6.3 -0.3	79	6.1 -0.6		
無関心期	1,072	94.0 0.6	1,324	92.7 -1.5	1,332	93.7 0.3	1,223	93.9 0.6		
実施有×観戦有									5.368	=.147**
関心期以上	6	85.7 2.1	7	50.0 0.1	4	36.4 -1.0	3	33.3 -1.0		
無関心期	1	14.3 -2.1	7	50.0 -0.1	7	63.6 1.0	6	66.7 1.0		
実施無×観戦有									1.295	=.730
関心期以上	13	48.1 0.3	20	45.5 0.0	10	37.0 -1.0	14	51.9 0.7		
無関心期	14	51.9 -0.3	24	54.5 0.0	17	63.0 1.0	13	48.1 -0.7		
うち直接観戦行動の継続期群 除外									1.388	=.708
関心期以上	11	44.0 0.8	12	33.3 -0.6	8	32.0 -0.7	10	43.5 0.7		
無関心期	14	56.0 -0.8	24	66.7 0.6	17	68.0 0.7	13	56.5 -0.7		
実施有×観戦無									.041	=.998
関心期以上	7	10.0 0.0	10	10.4 0.1	10	10.4 0.1	8	9.6 -0.2		
無関心期	63	90.0 0.0	86	89.6 -0.1	86	89.6 -0.1	75	90.4 0.2		
うち実施工動の継続期群 除外									.152	=.985
関心期以上	6	8.7 -0.3	9	9.8 0.0	10	10.5 0.3	8	9.8 0.0		
無関心期	63	91.3 0.3	83	90.2 0.0	85	89.5 -0.3	74	90.2 0.0		
実施無×観戦無									1.879	=.598
関心期以上	43	4.1 -1.1	67	5.3 0.9	65	5.1 0.5	54	4.6 -0.4		
無関心期	994	95.9 1.1	1,207	94.7 -0.9	1,222	94.9 -0.5	1,129	95.4 0.4		

※継続期+実工期+関心期，\*\*期待度数5未満のセルが20.0%以上，1.96>|調整済み標準化残差|のセルに色付け

#### 4-4-6 学齢期の実施・観戦経験による傾向分析(観戦経験時期別)

学齢期に直接観戦経験がある群について、学齢期ごとの直接観戦経験の有無と直接観戦行動の変容ステージによるクロス集計を行った(表 14. 学齢期ごとに集計を行い、直接観戦経験の有る群の結果のみを抜粋し一覧化)。その結果、全体、男性およびプロ野球(全体・男性)において有意差が認められ、調整済み標準化残差による残差分析の結果、学齢期の直接観戦時期が「中学校期」>「小学校期」>「高校期」>「大学期」の順に、直接観戦行動の変容ステージが「継続期」、「実行期」または「関心期」に該当する者の割合が有意に高い傾向が認められた(図 8)。期待度数 5 未満のセルが 20.0%以上となったため統計的有意差は認められなかったが、女性、Jリーグ(全体・男性)およびBリーグ/WJBL/Vリーグでは、他の学齢期と比較し「高校期」に直接観戦経験のある割合が低い傾向にあった。

期待度数 5 未満のセルが 20.0%以上となったため統計的有意差は認められなかったが、直接観戦行動の変容ステージが継続期である群に対しクロス集計を行った結果(図 9)、全体的に「中学校期」および「高校期」に直接観戦経験が有る者の割合が高い傾向にあった。同様に、実行期群に対しクロス集計を行った結果(図 10)、全体的に「小学校期」の割合が高い傾向にあったが、「Jリーグ(全体・男性)」については「大学期」の割合が高い傾向にあった。

表 14 学齢期の観戦経験時期と現在の直接観戦行動

(%は列に対する/残差は調整済み標準化残差)

		小学校期			中学校期			高校期			大学期		
		n	%	残差	n	%	残差	n	%	残差	n	%	残差
全体	関心期以上 ※	197	57.3	36.3***	186	64.8	38.1***	146	64.9	31.7***	155	68.3	31.7***
	無関心期	147	42.7	-36.3***	101	35.2	-38.1***	79	35.1	-31.7***	72	31.7	-31.7***
	合計	344			287			225			227		

		小学校期			中学校期			高校期			大学期		
		n	%	残差	n	%	残差	n	%	残差	n	%	残差
男性	関心期以上	150	58.1	30.2***	140	66.7	31.7***	112	71.3	27.9***	115	73.2	27.0***
	無関心期	108	41.9	-30.2***	70	33.3	-31.7***	45	28.7	-27.9***	42	26.8	-27.0***
	合計	258			210			157			157		
女性	関心期以上	47	54.7	18.4***	46	59.7	19.2**	34	50.0	13.8**	40	57.1	15.4***
	無関心期	39	45.3	-18.4***	31	40.3	-19.2**	34	50.0	-13.8**	30	42.9	-15.4***
	合計	86			77			68			70		

※継続期+実行期+関心期

\*\*\*カイ二乗検定の結果が  $p < .001$ , \*\* カイ二乗検定の結果は  $p < .001$  だが期待度数 5 未満のセルが 20.0%以上

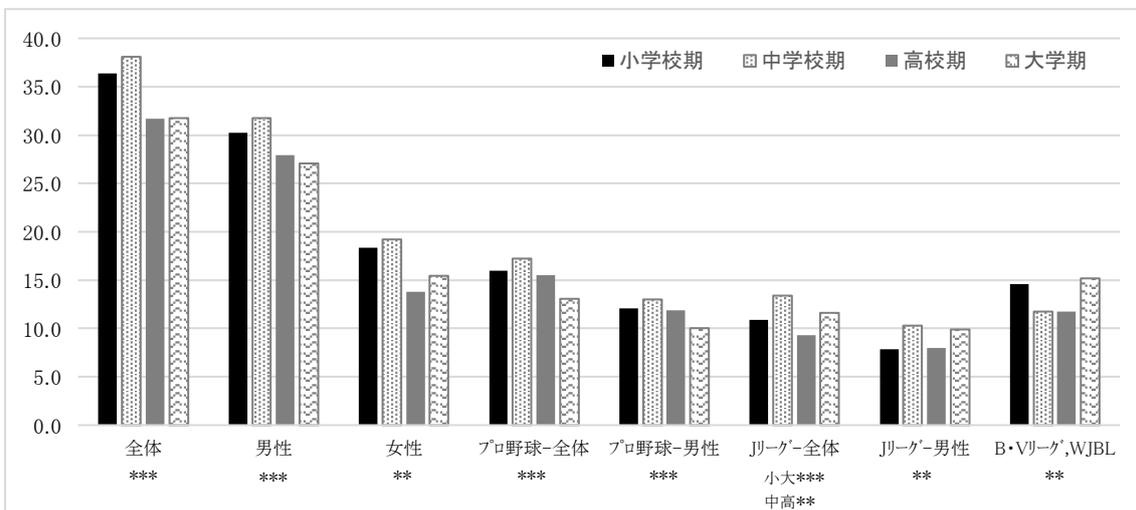


図 8 調整済み標準化残差の比較(学齢期の直接観戦時期×現在の直接観戦行動)

\*\*\*カイ二乗検定の結果が  $p < .001$ , \*\* カイ二乗検定の結果は  $p < .001$  または  $p < .01$  だが期待度数 5 未満のセルが 20.0%以上

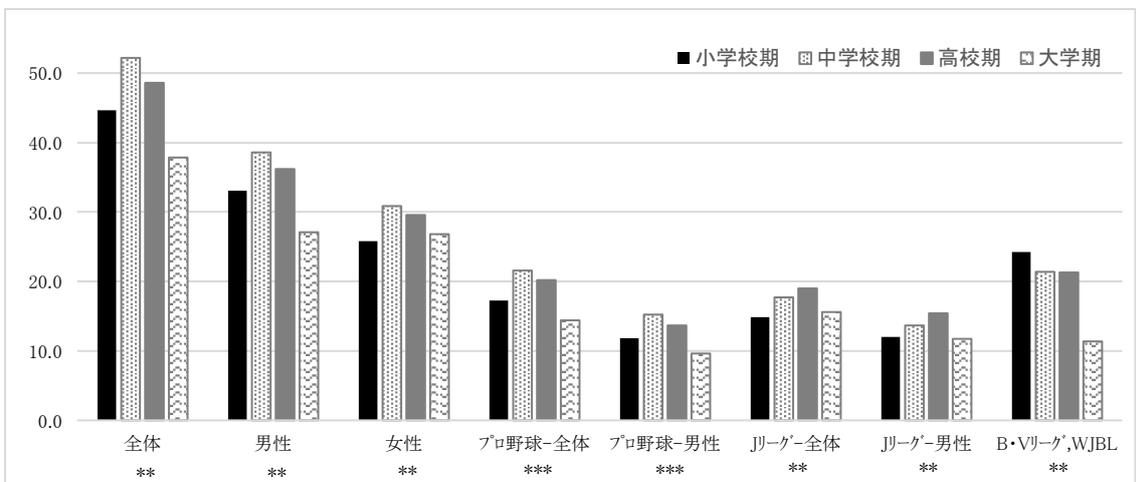


図 9 調整済み標準化残差の比較(学齢期の直接観戦時期×現在の直接観戦行動:継続期)

\*\*\*カイ二乗検定の結果が  $p < .001$ , \*\* カイ二乗検定の結果は  $p < .001$  だが期待度数 5 未満のセルが 20.0%以上

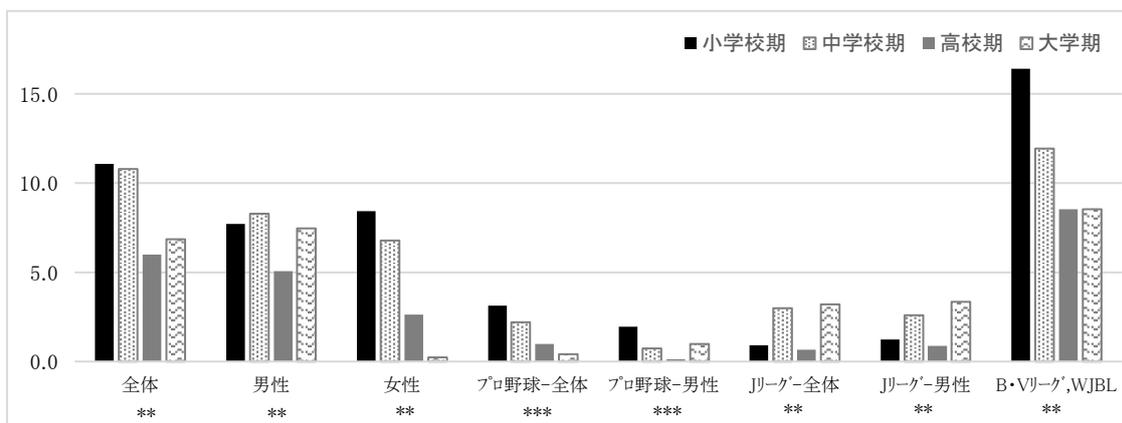


図 10 調整済み標準化残差の比較(学齢期の直接観戦時期×現在の直接観戦行動:実行期)

\*\*\*カイ二乗検定の結果が  $p < .001$ , \*\* カイ二乗検定の結果は  $p < .001$  だが期待度数 5 未満のセルが 20.0%以上

#### 4-5 小括

研究 2 では仮説 2, 仮説 3-1 および仮説 2 の検証結果を踏まえ新たに設定した仮説 3-3 に対し,  $\chi^2$  検定と残差分析による検証を行った. その結果, 学齢期に同一種目の実施経験が有る群よりも, 直接観戦経験が有る群の方が, 成人期以降の直接観戦行動率および意向保有率が有意に高く, 仮説 2 は支持されなかった. この傾向は対象リーグの直接観戦経験者, または対象リーグで行われている種目と同一種目の実施経験者について集計した場合も同様であった.

実施行動の継続期群を除外したうえで, 学齢期の実施経験と現在の直接観戦行動(実行期)または意向(関心期)についてのクロス集計を行った結果, 一部リーグを除き継続状況によらず学齢期の実施経験有り群の方が, 無し群と比較し観戦行動率または意向保有率が有意に高い傾向(仮説 1)が確認され, 仮説 3-1 は概ね支持された. また直接観戦行動または実施行動の継続期群を除外したうえで, 学齢期の実施観戦分類と直接観戦行動の変容ステージについてのクロス集計を行った結果, 仮説 2 の検証過程で観察された「実施有×観戦無」群と比較し, 「実施無×観戦有」群の方が実行期および関心期の割合が有意に高い傾向がいずれの条件設定でも認められ, 仮説

3-3 は支持された。

直接観戦行動の変容ステージにおいて実行期または関心期に該当する者の割合を年代別に集計したところ、男性では「実施有×観戦無」群において 30 代の割合が有意に低い傾向が認められた。一方で、観戦経験がある群(実施有×観戦有;実施無×観戦有)では有意差は認められず、学齢期に直接観戦を経験することで成人後も年代を問わず直接観戦に興味を持ち続ける可能性が示唆された。同様の集計を観戦経験時期別に行ったところ、性別または種目によって異なる結果となったが、現在の直接観戦行動の継続期群については、全体的に「中学校期」および「高校期」の観戦経験者の割合が高い傾向にあった。

## 5. 考察

本研究では、直接観戦行動の「持ち越し効果」の有無およびその傾向を確認するため、学齢期のスポーツ実施工動または直接観戦行動と、現在の直接観戦行動または直接観戦意向の有無を調査し、セグメントごとに検証を行った。その結果、仮説 1、仮説 3-1 および仮説 2 の検証結果を踏まえ新たに設定した仮説 3-3 は概ね支持され、仮説 2 は支持されなかった。

研究 1 では仮説 1 に基づき、学齢期の実施経験と現在の直接観戦行動および今後の直接観戦意向に関する分析を行った。その結果、対象種目において学齢期に実施経験が有る群の方が、無い群と比較し成人期以降の直接観戦行動率および意向保有率(潜在観戦者を含む)が高い傾向が示され、身体活動習慣や組織的スポーツ参加同様に直接観戦行動も持ち越される可能性が示された。本研究では横断的データを利用していることから因果関係を論じるには限界があり、かつ学齢期の経験者というセグメント設定を行うことでターゲットの間口を狭くするという指摘も想定さ

れるが、実務的なアプローチ効率の観点では、本結果は集客施策を検討する現場への参考情報になり得ると考える。スポーツは必要財ではなく選択財<sup>40)</sup>であり、新規顧客の獲得費用は既存顧客へのアプローチ費用の5～10倍とされる。さらに、先行研究では非活動(inactivity)は活動よりも持ち越され<sup>4)</sup>、「無関心期」群では「関心期」以降の群と比較し浸透効果も低い傾向にある<sup>15)</sup>ことから、全方位的な市場開拓戦略と併せて、対象種目への参画経験のあるターゲットへ向けた市場浸透戦略<sup>41)</sup>を検討する余地はある。学齢期の実施経験者の多くは中央競技団体への競技者登録を行っており、制度設計次第ではこれらのデータをリーグの集客施策へ活用することも有効だろう。

一方で、直接観戦回数については学齢期の実施経験の有無による有意差は認められず、実施経験に基づくルールや技術等の種目に関する知識がなくとも、リピーター化する可能性を示す結果となった。これは、興行を主催するリーグやチームにとって来場者サービスや会場の雰囲気作りを検討するうえで示唆的である。

研究2では仮説2、仮説3-1および3-3に基づき、学齢期の実施経験または直接観戦経験と、現在の直接観戦行動および今後の直接観戦意向に関する分析を行った。その結果、仮説2は支持されず、学齢期に実施経験の有る群と比較し直接観戦経験の有る群の方が、成人期以降の直接観戦行動率および意向保有率が高い傾向が示された。Kenyon, et. al. <sup>29)</sup>は、第1スポーツ役割である実施工動と第2スポーツ役割である観戦行動(TV・ラジオ視聴や雑誌購読を含む)の社会化過程には明確な区別があると指摘しており、実施者と観戦者ではメディア利用や広告効果が異なることが示されている<sup>42)</sup>。本研究で対象としたリーグにおいても、種目が同一であったとしても、実施工動と直接観戦行動では行動する場所や関係する人物は異なることが想定される。そのため、部活動の顧問が引率し直接観戦に行く等の機会が無い限り両行動は自然には紐付かず、別物と

認識されることが考えられる。国内ではスタジアムやアリーナの改修や、興行主体によるサービスクオリティ向上の努力により観戦環境が整備されつつあり、このことが両行動のイメージをより差別化する一因になっていることも推察される。観戦機会の提供主体であるリーグやチームは、実施経験と直接観戦経験を分けて認識したうえで、成人期以降の直接観戦行動にも結びつく、学齢期の観戦者向けのスポーツ参画施策を検討する必要があると考える。MLBでは近隣地域の学校または公共施設と提携し、夏季休暇時の読書表彰(New York Public Library Summer Reading Program; New York Yankees)や教員表彰(Stars of the Classroom; Kansas City Royals)等の観戦機会を提供する施策を行っている。これらの施策が対象とする層は低頻度リピーター<sup>43)</sup>であるが、ホームゲームの開催回数が少ないリーグにおいては参考にすべきだろう。また、直接観戦行動は実行動や間接観戦行動と比較し、1回あたりの費用が高額であることが多い。文化的再生産論<sup>44)</sup>を基盤とした研究では、学歴資格や所得は家庭内で親から子へ再生産される傾向にあることが示されており、学齢期に直接観戦経験を行う金銭的余裕のある家庭で育った者が成人期以降に同等の所得水準を維持することで、直接観戦行動が再生産されている可能性も示唆される。

研究 2 では、学齢期の実施または直接観戦経験者に対し、現在までの行動の継続性を調査した。その結果、仮説 3-1 および 3-3 は概ね支持され、直接観戦行動における再社会化群の存在が確認された。年代別集計では、全体的に 30 代において、他の年代と比較し直接観戦行動率および意向保有率が低い傾向にある中で、学齢期の直接観戦経験が有る群では年代による有意差は確認されなかった。30 代の対象者に対し学齢期の直接観戦経験の有無と現在の家族構成について集計を行ったところ(表 15)、直接観戦行動の実行期群において、学齢期の直接観戦経験が有る群は、無い群と比較し子どもがいる割合が高い傾向にあった。本集計は対象数が少なく補助

的な位置付けではあるが、学齢期に直接観戦を経験することでスタジアムやアリーナを子連れで行く場所として認識し、自身が子育て世代になった際の直接観戦に対する心理的障壁が下がるといふ好循環が推察される。

表 15 学齢期の直接観戦経験ごとの直接観戦行動パターンと家族構成の比較(30代) (人)

		学齢期の観戦経験有り					学齢期の観戦経験無し				
		子ども有		子ども無		合計	子ども有		子ども無		合計
		N	%	n	%	n	n	%	n	%	n
全体	実行期	20	42.6	27	57.4	47	2	12.5	14	87.5	16
	関心期	22	44.0	28	56.0	50	52	54.2	44	45.8	96
	無関心期	41	48.8	43	51.2	84	1368	54.3	1153	45.7	2521
男性	実行期	14	41.2	20	58.8	34	1	20.0	4	80.0	5
	関心期	15	41.7	21	58.3	36	16	53.3	14	46.7	30
	無関心期	18	34.0	35	66.0	53	573	46.7	655	53.3	1,228
女性	実行期	6	46.2	7	53.8	13	1	9.1	10	90.9	11
	関心期	7	50.0	7	50.0	14	36	54.5	30	45.5	66
	無関心期	23	74.2	8	25.8	31	795	61.5	498	38.5	1,293

観戦経験時期別の集計では、継続期群において高校期の直接観戦経験者の割合が高い傾向にあった。運動部活動等に休日を費やし時間的余裕が無く、また自身で観戦チケットを購入するには自由裁量所得(お小遣い)が少ないこの時期に様々な余暇活動の中から直接観戦を選択した者は、その後のライフステージの変化に左右されず観戦行動を継続することが推察される。また実行期群においては、大学期の直接観戦経験者群における割合が高校期と比較し高い傾向にあった。これは、スポーツ観戦が成人の余暇時間の過ごし方として定着することに加え、大学期の観戦同行者と成人期以降も引き続き来場することができること、また大卒のため自由裁量所得が高い傾向にあることが考えられる。実施行動の持ち越しにおいても、学齢期の経験時期または最終学歴により成人後のスポーツ活動の実施レベル<sup>12)</sup>や継続・再開傾向<sup>33)</sup>に有意な説明力をもつことが指

摘されており、直接観戦行動においても対象とする学齢期に応じたアプローチを検討する必要があるといえる。澤井<sup>12)</sup>は、実施行動において、女性では学齢期の運動部加入経験以上に職業や世帯年収などの現在のプロフィールの方が強く影響すると指摘しており、本検証での実行期群の分析結果において、全体・男性と女性の傾向が異なる理由のひとつであると考えられる。

鈴木<sup>45)</sup>は、成人期以前の強制的な運動経験が成人後の身体活動と負の相関がある<sup>46)</sup>ことを背景に身体活動の質的な側面を考慮した調査を行い、過去の運動経験は現在の運動習慣に対して直接的に影響を及ぼすのではなく、運動好意度を介在して間接的に影響を及ぼすことを指摘した。直接観戦行動は実施行動と比較し身体的または心理的負担が少ないと考えられるが、直接観戦においても学齢期向けの観戦機会を提供するだけでなく、試合会場での経験価値を高め、直接観戦に対する好意度を高める必要がある。

スポーツ文化論の観点では、スポーツ観戦をよりよく楽しむ力である「享受能力」を育成する重要性が論じられている<sup>47)</sup>。演技種目等の美的スポーツ<sup>48)</sup>においては「鑑賞能力」に関する研究が行われているが<sup>49)</sup>、目的スポーツ<sup>48)</sup>に分類される競技種目においても実技(する)指導だけでなく、ルールや戦術理解を含む「観戦能力」の育成が求められると考える。国内リーグおよびチームには「文化としてのスポーツ」マーケティング戦略<sup>50)</sup>のもと、観戦者による直接観戦行動の中断を想定し再開を促す長期的かつ寛容な視点が求められる。

## 6. 研究の限界

本研究の限界として、思い出シバイアス<sup>51)</sup>が挙げられる。検証に利用した学齢期の実施経験および直接観戦経験に関する情報は自己申告方式で取得されており、過去の行動を覚えていない、

または記憶違いがあることが想定される。特に直接観戦については、観戦行動自体は行っていたとしても、日本代表戦や大学リーグでの観戦経験を本研究の対象リーグ戦と混同し回答している可能性を含む。また検証の観点によっては、データ数の制約により統計的な期待度数が担保されないケースがあった。本文上は分別し記載しているが、結果の解釈においては留意する必要がある。

4-4-5では年代別分析を行ったが、本研究はあくまでも横断的データを用いた一時点の観察結果であり、同一人物または世代を追跡した調査ではない。そのため、学齢期のスポーツ参画経験と現在の直接観戦行動の因果関係を論じるには限界があり、傾向分析にとどまる。

直接観戦行動には対象者の意向に加え、居住地域の近隣にスタジアムやアリーナ等の会場が存在し、かつ試合が開催されるという地理的制約が大きな要因となる。データ③を用いて直接観戦行動の継続期または実行期に該当する回答者について、居住都道府県ごとの割合を確認したところ(表 16)、首都圏およびプロスポーツチームが本拠地としている都道府県に居住している者の割合が上位を占めた。本集計ではデータ③の保有項目の制約上、回答者が現在居住している都道府県を用いているが、学齢期の居住地域を加味し分析する必要がある。霜島他<sup>52)</sup>はテニスクラブのコーチによるエキジビションマッチ観戦がクラブ生の実施行動へ与える浸透効果を示しており、開催回数や地理的制約の多い直接観戦においては、試合カテゴリー(トップリーグ・学生リーグ等)を跨いだ効果検証も有意義であろう。

実施行動の持ち越し効果に関しては、学齢期の実施頻度や運動強度<sup>12)</sup>、成人期以降の開始・再開年齢<sup>11)</sup>等の派生研究が重ねられている。本研究では、国内においては観戦環境の整備が進んでいる団体球技系トップリーグを対象とし検証を行ったが、今後の研究では対象とする種目の

範囲を広げると共に、学齢期または現在の観戦頻度や同行者、試合カテゴリー等の詳細に踏み込んだ検証を蓄積する必要があると考える。

表 16 直近1年間の直接観戦有り群における居住都道府県の割合（上位11県のみ）（人）

	回答者数		直接観戦有り(直近1年間)		
	N	%	N	%	
東京都	191	12.9	31	15.8	
神奈川県	110	7.4	18	9.2	
大阪府	137	9.2	18	9.2	
埼玉県	99	6.7	17	8.7	
広島県	37	2.5	14	7.1	
千葉県	72	4.8	13	6.6	
愛知県	92	6.2	11	5.6	
兵庫県	71	4.8	10	5.1	
福岡県	47	3.2	8	4.1	
北海道	74	5.0	7	3.6	
静岡県	41	2.8	7	3.6	
合計(47都道府県)	1,485	-	196	-	

## 注

注 1: 社会心理学では「行動意図」と表記するのが一般的であるが、スポーツマーケティングでは

「意向」が多用される。本稿では「誘われたら行ってみたい」といった、観戦目的の抽象度が  
高く受動的な態度も含むことから「意向」に統一し表記する。

注 2: 本調査では「直接観戦意向」について、学齢期から持ち続けるといった持続性は問わず、調

査回答時点での意向の有無について質問している。そのため、本稿では「保持」ではなく  
「保有」を用いて表記する。

注 3: ナショナルバスケットボールリーグ(NBL)と、2005年にNBLの前身であるバスケットボール

日本リーグ機構(JBL)から独立した日本プロバスケットボールリーグ(bjリーグ)を統一する形で、2015年にジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ(JPBL)が設立され、2016年よりJPBLが主催するBリーグが開催されている。本稿ではデータ取得時期により、データ①および②はNBLまたはbjリーグ、データ③はBリーグに関する設問となっている。

## 引用・参考文献

- 1) 文部科学省スポーツ庁;第2期スポーツ基本計画, [http://www.mext.go.jp/prev\\_sports/comp/a\\_menu/sports/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/03/23/1383656\\_002.pdf](http://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/a_menu/sports/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/03/23/1383656_002.pdf), (2018年2月26日参照).
- 2) 文部科学省スポーツ庁:運動部活動の現状について, [http://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/shingi/013\\_index/shiryo/\\_icsFiles/afieldfile/2017/08/17/1386194\\_02.pdf](http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2017/08/17/1386194_02.pdf), (2018年8月17日参照).
- 3) 鈴木 守(2006). NF の組織化の現状と課題. 佐伯年詩監修 菊幸一・仲澤眞編 スポーツプロモーション論. 明和出版:東京, 101.
- 4) Telama, R. (2009). Tracking of physical activity from childhood to adulthood: a review. *Obesity facts*, 2(3), 187-195.
- 5) AOYAGI, K., ISHI, K., SHIBATA, A., ARAI, H., & OKA, K. (2017). 学齢期の組織的スポーツ参加と成人期のスポーツ参加の関連: 回顧的データに基づく持ち越し効果の検討. *スポーツ産業学研究*, 27(3), 245-256.

- 6) 岡 浩一朗 (2014). あらためて運動部活動について考える. 体育の科学, 64(4), 222-224.
- 7) Suzuki, K., & Nishijima, T. (2005). Effects of sports experience and exercise habits on physical fitness and motor ability in high school students. *School health*, 1, 22-38.
- 8) 平田久雄, 青山昌二, 菊池裕子 (1989). 社会人のスポーツ活動に作用する要因の分析. 体育学紀要, 23:39-43.
- 9) 菊 幸一 (1991). 中高年参加者のスポーツ・キャリアパターン. 平成 3 年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告; No.VII 中高年者のスポーツ参加に関する社会的・心理学的研究, 31-60.
- 10) 稲田俊治, 岡田守方 (1998). 社会人のスポーツ志向に関する研究(Ⅲ)-学生時代のスポーツ経験と現在の活動との関連-. 高知大学教育学部研究報告, 55:65-73.
- 11) 長ヶ原誠. (2011). 中高年競技者のスポーツ・キャリア (特集 スポーツ・キャリア). 体育の科学, 61(9), 678-683.
- 12) 澤井和彦. (2014). 運動部活動への参加が成人後の運動・スポーツ活動に与える影響:「運動習慣の持ち越し」は存在するか?(特集 運動部活動のゆくえ). 体育の科学, 64(4), 248-255.
- 13) 大勝志津穂, & 來田享子. (2016). 成人期以降の集団球技種目実施者における 過去の同一種目経験の影響. 生涯スポーツ学研究, 13(2), 43-54.
- 14) Weed, M., Coren, E., Fiore, J., Mansfield, L., Wellard, I., Chatziefstathiou, D., & Dowse, S. (2009). A systematic review of the evidence base for developing a physical activity and health legacy from the London 2012 Olympic and Paralympic Games. Department of health.
- 15) Ramchandani, G., Coleman, R. J., & Bingham, J. (2017). Sport participation behaviours of

- spectators attending major sports events and event induced attitudinal changes towards sport. International Journal of Event and Festival Management, 8(2), 121-135.
- 16) Wicker, P., & Sotiriadou, P. (2013). The trickle-down effect: What population groups benefit from hosting major sport events. International Journal of Event Management Research, 8(2), 25-41.
- 17) 藤本淳也, 原田宗彦, & 松岡宏高. (1996). プロスポーツ観戦回数に影響を及ぼす要因に関する研究: 特に, プロ野球のチーム・ロイヤルティに注目して. 大阪体育大学紀要, 27, 51-62.
- 18) 藤本淳也, & 原田宗彦. (2001). 潜在的観戦者のマーケット・セグメンテーションに関する研究: 特に観戦意図に注目して. 大阪体育大学紀要, 32, 1-11.
- 19) 佐野昌行. (2007). 国際スポーツイベント観戦者の基礎的特性に関する研究. 日本体育大学紀要, 36(2), 231-248.
- 20) 齋藤れい, 原田宗彦, & 広瀬盛一. (2010). スポーツ観戦における経験価値尺度開発およびJリーグ観戦者の分類. スポーツマネジメント研究, 2(1), 3-17.
- 21) e-Stat 政府統計の総合窓口;家計調査家計収支編(詳細結果表), <https://www.e-stat.go.jp/>, (2018年10月18日参照).
- 22) Kotler, P., & Keller, K. L. (2008). マーケティング・マネジメント(第12版). 丸善出版, 286-297.
- 23) 金崎良三. (2000). 生涯スポーツの理論. 不昧堂出版: 東京, 101-120.
- 24) 山口泰雄. (1987). スポーツ社会学の最近の研究動向 I-スポーツの社会化. 体育の科学,

- 37(1), 142-148.
- 25) 吉田毅. (1992). スポーツ社会学における社会化論への一視角: 主体性をめぐって. 体育学研究, 37(3), 255-267.
- 26) Nobe, M., & Kajifusa, I. (2013). スポーツへの関わりに関する研究動向. 岡山大学大学院教育学研究科研究集録, 153, 109-113.
- 27) McPherson, B. D. (1981). Socialization into and through sport involvement. Handbook of social science of sport, 246-273.
- 28) 三本松正敏. (1981). スポーツ社会学における”社会化”研究の展開と課題. 福岡教育大学紀要 第5分冊 芸術・保健体育・家政科編, (31), 139-149.
- 29) Kenyon, G. S., & McPherson, B. D. (1973). Becoming involved in physical activity and sport: A process of socialization. Physical activity: Human growth and development, 303-332.
- 30) McPherson, B. D. (1990). Aging as a social process: An introduction to individual and population aging. Butterworth-Heinemann, 130-133.
- 31) 原田宗彦, & 長積仁. (1989). 023D06 高齢者のスポーツへの再社会化に関する研究. 日本体育学会大会号第40回, 161.
- 32) 山口泰雄. (1988). 高齢者のスポーツ活動とその生活構造 (地域社会の体育・スポーツく特集 >). 体育の科学, 38(7), 507-513.
- 33) 長女原誠, 山口泰雄, & 池田勝. (1992). 高齢者におけるスポーツ活動への再社会化に関する研究. 学術研究紀要, 鹿屋体育大学, 7, 31-41.
- 34) 吉田毅. (1994). スポーツ的社会化論からみたバーンアウト競技者の変容過程. スポーツ社会

- 学研究, 2, 67-79.
- 35) 久保和之, 富山浩三, 川西正志, 守能信次, 北九州大学, & 鹿屋体育大学. (1999). 女性マスタースイマーの社会化パターン: 過去のスポーツ活動と現在の活動特性. 中京大学体育学論叢, 40(2), 31-40.
- 36) 吉田毅. (2014). 中途身体障害者のスポーツへの社会化に寄与する他者に関する社会学的研究: 骨肉腫を克服した元車椅子バスケットボール選手の語りから. 体育学研究, 59(2), 855-867.
- 37) 米川和雄, & 山崎貞政. (2010). 超初心者向け SPSS 統計解析マニュアル: 統計の基礎から多変量解析まで. 北大路書房.
- 38) 生物科学研究所井口研究室;カイ二乗検定(独立性検定)から残差分析へ:全体から項目別への検定, <https://biolab.sakura.ne.jp/chi-square-residual-analysis.html>, (2018年12月30日参照).
- 39) 飯島沙織, 庄子博人, 岡浩一朗, & 間野義之. (2012). 球技系トップリーグを対象としたスポーツ観戦行動の変容ステージ尺度一尺度の信頼性およびスポーツ観戦行動指標との関連による妥当性の検討一. スポーツ産業学研究, 22(2), 271-279.
- 40) 中澤眞. (1999). スポーツの経済学. 杏林書院, 23-26.
- 41) Ansoff, H. I. (1965). Corporate strategy: An analytic approach to business policy for growth and expansion. McGraw-Hill Companies, 100-116.
- 42) Burnett, J., Menon, A., & Smart, D. T. (1993). Sports marketing: A new ball game with new rules. Journal of Advertising Research, 21-35.

- 43) 武藤泰明研究室;オリジナルキーワード, <http://mutolab.web.fc2.com/keywords.html>, (2018年8月29日参照).
- 44) Bourdieu, P. (1973). Cultural reproduction and social reproduction. London: Tavistock, 173-184.
- 45) 鈴木宏哉. (2009). どんな運動経験が生涯を通じた運動習慣獲得に必要な?: 成人期以前の運動経験が成人後の運動習慣に及ぼす影響. 発育発達研究, 2009(41), 1-9.
- 46) Taylor, W. C., Blair, S. N., Cummings, S. S., Wun, C. C., & Malina, R. M. (1999). Childhood and adolescent physical activity patterns and adult physical activity. *Medicine and science in sports and exercise*, 31(1), 118-123.
- 47) 仲澤 眞 (2006). 多様なスポーツライフスタイルの構想. 佐伯年詩監修 菊幸一・仲澤眞編 スポーツプロモーション論. 明和出版:東京, 189.
- 48) Best, D. (1978). *Philosophy and human movement*, George Allen & Unwin: London, 103-105.
- 49) 醍醐笑部. (2015). スポーツ鑑賞能力とその教授方略-舞踊を手がかりとして. Doctoral dissertation, 早稲田大学.
- 50) 藤本淳也. (2004). スポーツファンを知る:みるスポーツ. スポーツ産業論入門 第3版. 杏林書房: 東京, 101.
- 51) 鈴木淳子. (2011). 質問紙デザインの技法. ナカニシヤ出版: 京都, 154.
- 52) 霜島広樹, & 木村和彦. (2013). テニスクラブ生を対象としたコーチによるエキシビションマッチが観戦者に与える影響-クラブマネジメントへの活用可能性の観点から. スポーツ産業学研究, 23(1), 19-32.

付録

付録 1: スポーツ・ライフデータ 調査票(公益財団法人笹川スポーツ財団, 2016. 一般公開されている単純集計結果が記載されたものであり, 関連部分のみ抜粋.)

2016-04018

スポーツライフに関する調査2016  
～スポーツ活動に関する全国調査～  
【第13回】

この調査は、1992年から隔年で実施しており、日頃のスポーツ活動や観戦の状況、好きなスポーツ選手など、スポーツ全般について幅広く皆様からのご意見を伺いするものです。  
アンケート結果は、報告書にまとめ、行政や教育の場で活用できる統計資料とさせていただきます。新聞等では12月ごろに発表する予定です。  
お忙しいところ、誠に恐れ入りますが、アンケートの趣旨をご理解の上、ぜひともご協力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

●調査票は、    月    日    曜 時頃に、受け取りにお伺いします。  
それまでに記入くださいますよう、お願い申し上げます。

2016年6月・7月

【調査企画】 笹川スポーツ財団  
東京都港区赤坂1-12-32  
ホームページ <http://www.ssf.or.jp>

なお、調査の実施は、下記の調査機関が行いますので、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社 日本リサーチセンター  
〒105-0023 東京都中央区日本橋本町2-7-1  
NOF日本橋ビル  
ホームページ <http://www.nrc.co.jp>

株式会社 日本リサーチセンター  
〒105-0023 東京都中央区日本橋本町2-7-1  
NOF日本橋ビル  
ホームページ <http://www.nrc.co.jp>

フリーダイヤル 0120-911-562(平日10:00～17:00)

アンケート係

過去1年間に行った運動・スポーツ n=3,000

問1 あなたは、過去1年間に運動・スポーツ(学校の授業は除きますが、学校や職場でのクラブ活動は含む)を行いましたか。下の種目一覧のあてはまる番号までにご記入ください。(○はいくつでもあてはまる種目が無い場合は「その他」に具体的に記入ください。(○はいくつでも一度も行わなかった人は、「99.この1年間に運動・スポーツは行わなかった」に○印をつけてください。)

<運動・スポーツ種目一覧>

ア行	01	アイススケート	46(1.5)	タ行	34	太極拳	17(0.6)
	02	アテンド/キッズ(水中歩行・運動など)	41(1.4)		35	体操(単体・団体、クラブ体操など)	510(17.0)
	03	インディアカ	6(0.2)		36	体操競技(器械体操)	4(0.1)
	04	インラインスケート	6(0.2)		37	卓球	130(4.3)
	05	ウォーキング	704(23.5)		38	つな引き	31(1.0)
	06	エアロビクスダンス	47(1.6)		39	釣り	222(7.4)
カ行	07	海水浴	186(6.2)		40	テニス(硬式テニス)	102(3.4)
	08	カヌー	13(0.4)		41	登山	141(4.7)
	09	空手	14(0.5)	ナ行	42	なわとび	131(4.4)
	10	キャッチボール	169(5.6)	ハ行	43	ハイキング	118(3.9)
	11	キャンプ	92(3.1)		44	バスケケットボール	73(2.4)
	12	筋力トレーニング	410(13.7)		45	バドミントン	164(5.5)
	13	グラウンドゴルフ	72(2.4)		46	バレーボール	92(3.1)
	14	ゲートボール	8(0.3)		47	ハンドボール	4(0.1)
	15	剣道	14(0.5)		48	フットサル	69(2.3)
	16	ゴルフ(コース)	210(7.0)		49	フライングディスク(frisbee)	17(0.6)
	17	ゴルフ(練習場)	189(6.3)	セ行	50	ボウリング	286(9.5)
	18	サイクリング	204(6.8)		51	ボクシング	5(0.2)
	19	サッカー	109(3.6)		52	ボート・漕艇	9(0.3)
	20	サーフィン	18(0.6)		53	ボートセーリング(ウインドサーフィング)	2(0.1)
	21	散歩(お散歩)	951(31.7)	ヤ行	54	野球	98(3.3)
	22	柔道	9(0.3)		55	ヨーガ	139(4.6)
	23	乗馬	4(0.1)		56	ヨット	2(0.1)
	24	ジヨウキョウ・ランニング	266(8.9)	ウ行	57	ラグビー	5(0.2)
	25	水泳	223(7.4)		58	陸上競技	18(0.6)
	26	水上バイク(ジェットスキーなど)	112(0.4)		59	ロードレース(駅伝・マラソンなど)	32(1.1)
	27	社交ダンス	18(0.6)		60	ローラースケート	4(0.1)
	28	スキー	93(3.1)	その他	61	(パークゴルフ)	13(0.4)
	29	スクアータンニング	13(0.4)		62	(フライング)	9(0.3)
	30	スノーボード	79(2.6)		63	(ボルトラング)	8(0.3)
	31	ソフトテニス(軟式テニス)	36(1.2)	99	この1年間に運動・スポーツは行わなかった	827(27.6)	
	32	ソフトバレー	52(1.7)				
	33	ソフトボール	73(2.4)				

3ページの問3へお進みください。

スポーツライフデータ 2016 (117)

【過去1年間に運動・スポーツを「行った」方におうかがいします。】

問2 問1でお答えになった運動・スポーツ種目について、実施回数が多いものから順に、A～Eまでの間にお答えください。(※問1で5つ以上の種目をお答えになった方は、実施回数の多いものを5つ選んでお答えください。)

A	B	C	D	E
実施した運動・スポーツのうち、回数の多いものを5つ選んで「種目名」をご記入ください。	この1年間に何回くらい、その運動・スポーツを行いましたか。(種目名と「種目名」をご記入ください。)	その1年間に何回くらいその運動・スポーツを行いましたか。(分を数字で記入)	その運動・スポーツを行った時の「きつい」は平均してどれくらいでしたか。(〇はひとつ)	その運動・スポーツを行った際の「きつい」は平均してどれくらいでしたか。(〇はひとつ)
05 (ウォーキング)	記入例: 年 月 日 00 04 回 回数を数字で記入	記入例: 平均 0 45 分 分を数字で記入	記入例: 1 かなり楽である 2 楽である 3 ややきつい 4 きつい 5 かなりきつい	記入例: 1 公共の施設 2 小・中・高校の学校施設 3 大学・高等等の学校施設 4 民間の施設 5 職場の施設 6 施設は利用していない 7 その他(具体的に)
21 (散歩(ぶらぶら歩き))	記入例: 年 月 日 12 3 5 回 回数を数字で記入	記入例: 平均 4 1 6 分 分を数字で記入	記入例: 1 かなり楽である 2 楽である 3 ややきつい 4 きつい 5 かなりきつい	記入例: 1 公共の施設 2 小・中・高校の学校施設 3 大学・高等等の学校施設 4 民間の施設 5 職場の施設 6 施設は利用していない 7 その他(具体的に)
05 (ウォーキング)	記入例: 年 月 日 14 5 8 回 回数を数字で記入	記入例: 平均 4 9 1 分 分を数字で記入	記入例: 1 かなり楽である 2 楽である 3 ややきつい 4 きつい 5 かなりきつい	記入例: 1 公共の施設 2 小・中・高校の学校施設 3 大学・高等等の学校施設 4 民間の施設 5 職場の施設 6 施設は利用していない 7 その他(具体的に)
35 (体操(簡単なストレッチ))	記入例: 年 月 日 14 2 3 回 回数を数字で記入	記入例: 平均 2 1 6 分 分を数字で記入	記入例: 1 かなり楽である 2 楽である 3 ややきつい 4 きつい 5 かなりきつい	記入例: 1 公共の施設 2 小・中・高校の学校施設 3 大学・高等等の学校施設 4 民間の施設 5 職場の施設 6 施設は利用していない 7 その他(具体的に)
12 (筋力トレーニング)	記入例: 年 月 日 12 0 0 回 回数を数字で記入	記入例: 平均 3 6 5 分 分を数字で記入	記入例: 1 かなり楽である 2 楽である 3 ややきつい 4 きつい 5 かなりきつい	記入例: 1 公共の施設 2 小・中・高校の学校施設 3 大学・高等等の学校施設 4 民間の施設 5 職場の施設 6 施設は利用していない 7 その他(具体的に)
24 (ジョギング・ランニング)	記入例: 年 月 日 9 4 8 回 回数を数字で記入	記入例: 平均 4 1 1 分 分を数字で記入	記入例: 1 かなり楽である 2 楽である 3 ややきつい 4 きつい 5 かなりきつい	記入例: 1 公共の施設 2 小・中・高校の学校施設 3 大学・高等等の学校施設 4 民間の施設 5 職場の施設 6 施設は利用していない 7 その他(具体的に)

- (※E) 施設・場所一覧
- 01 体育館
  - 02 屋内プール
  - 03 屋外プール
  - 04 陸上競技場
  - 05 グラウンド
  - 06 野球・ソフトボール場
  - 07 武道場
  - 08 タンスタジアム
  - 09 トレーニングルーム
  - 10 テニスコート
  - 11 ゴルフ場(コース)
  - 12 ゴルフ場(練習場)
  - 13 ホウリング場
  - 14 スキー場
  - 15 ケートボール場
  - 16 サイクリングコース
  - 17 道路
  - 18 公園
  - 19 河川敷
  - 20 自宅(庭・室内等)
  - 21 海岸
  - 22 高原・山

【全員におうかがいします。】

今後行いたい運動・スポーツ

n=3,000

問3 あなたは、今後行いたいと思う運動・スポーツ(現在行っている運動・スポーツも含めて)がありますか。下の一覧のあてはまる番号すべてに○印をつけてください。(○はい/×でも) 行いたいと思う運動・スポーツがない人は、下の「99 今後、行いたいと思う運動・スポーツはない」に○印をつけてください。

<運動・スポーツ種目一覧>

ア行	01	アイススケート	73(2.4)	34	太極拳	101(3.4)
	02	アテンドサービス(水泳練習・運動など)	119(4.0)	35	体操(種別:水泳)	441(14.7)
	03	インラインスケート	7(0.2)	36	体操競技(器械体操)	15(0.5)
	04	アイススケート	12(0.4)	37	卓球	178(5.9)
	05	ウォーキング	763(25.4)	38	つな引き	10(0.3)
	06	エアロビクスダンス	90(3.0)	39	釣り	309(10.3)
カ行	07	海水浴	172(5.7)	40	テニス(硬式テニス)	194(6.5)
	08	カヌー	56(1.9)	41	登山	261(8.7)
	09	空手	47(1.6)	42	なわとび	78(2.6)
	10	キヤッチボール	129(4.3)	43	ハイキング	265(8.8)
	11	キャンプ	249(8.3)	44	バスケットボール	93(3.1)
	12	筋力トレーニング	540(18.0)	45	バドミントン	213(7.1)
	13	クラウンゴルフ	80(2.7)	46	バレーボール	132(4.4)
	14	ゲートボール	12(0.4)	47	ハンドボール	5(0.2)
	15	剣道	27(0.9)	48	フットサル	105(3.5)
	16	ゴルフ(コース)	280(9.3)	49	フライングディスク(フリスビー)	22(0.7)
	17	ゴルフ(練習場)	225(7.5)	50	ボウリング	277(9.2)
キ行	18	サイクリング	249(8.3)	51	ボクシング	31(1.0)
	19	サッカ-	106(3.5)	52	ボート・滑漕	14(0.5)
	20	サーフィン	66(2.2)	53	ボートセーリング(ウインドサーフィング)	11(0.4)
	21	散歩(おらぶら歩き)	790(26.3)	54	野球	128(4.3)
	22	柔道	13(0.4)	55	ヨーガ	385(12.8)
	23	乗馬	113(3.8)	56	ヨット	11(0.4)
	24	ジョギング・ランニング	309(10.3)	57	ラグビー	8(0.3)
	25	水泳	366(12.2)	58	陸上競技	15(0.5)
	26	水上バイク(ジェットスキーなど)	62(2.1)	59	ロードレース(自転車・マラソンなど)	46(1.5)
	27	社交ダンス	53(1.8)	60	ローラースケート	13(0.4)
	28	スキー	200(6.7)	その他	61 ( ボルダリング )	17(0.6)
	29	スキーバズイピング	101(3.4)		62 ( パラゴルフ )	9(0.3)
	30	スノーボード	165(5.5)		63 ( キャンピング/テント/キャンプ )	5(0.2)
	31	ソフトテニス(硬式テニス)	80(2.7)		99 今後、行いたいと思う運動・スポーツはない	542(18.1)
	32	ソフトバレー	63(2.1)		スポーツはない → 次ページの問4へ	
	33	ソフトボール	62(2.1)			

SQ1 一覧で○をつけた種目のうち、今後最も行いたい運動・スポーツ種目名と番号を具体的にひとつづつ記入ください。  
 種目名  番号   
 例) テニス(硬式) 200(8.1)  
 無回答 4(0.2)

n=2,458

120 スポーツライフアンケート2016

3

【全員におうかがいします。】

スポーツクラブ・同好会・チーム

問4 あなたは、現在、スポーツクラブや同好会・チームに加入していますか。ただし、小学校、中学校、高校時代の参加経験は含めずにお答えください。(○はい/×) n=3,000

- 1 加入している 542(18.1)
- 2 過去に加入していたが、現在は加入していない 663(22.1) → 下のSQ2へお進みください
- 3 これまでに加入したことはない 1,795(59.8) → 下のSQ3へお進みください

【加入している】方におうかがいします。】

SQ1 そのスポーツクラブや同好会・チームは、主にどのような人たちの集まりですか。(○はい/×) n=542

- 1 地域住民が中心となったクラブ・同好会・チーム 177(32.7)
- 2 民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ 132(24.4)
- 3 学校のOB・OGなどが中心となったクラブ・同好会・チーム 14(0.6)
- 4 職場の仲間を中心としたクラブ・同好会・チーム 39(7.2)
- 5 友人・知人が中心のクラブ・同好会・チーム 159(29.3)
- 6 その他(具体的に: 学校のクラブ・サークル) 10(1.8)

【過去に加入していたが、現在は加入していない】方におうかがいします。】 n=663

SQ2 過去に加入していたスポーツクラブや同好会・チームは、主にどのような人たちの集まりでしたか。(○はい/×)

- 1 地域住民が中心となったクラブ・同好会・チーム 193(29.1)
- 2 民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ 195(29.4)
- 3 学校のOB・OGなどが中心となったクラブ・同好会・チーム 42(6.3)
- 4 職場の仲間を中心としたクラブ・同好会・チーム 92(13.9)
- 5 友人・知人が中心のクラブ・同好会・チーム 131(19.8)
- 6 その他(具体的に: 学校のクラブ・サークル/父兄の会/体協などの教員やPTA) 2(0.3)

【過去に加入していたが、現在は加入していない】「これまで」に加入したことはない方におうかがいします。】

SQ3 今後、あなたはスポーツクラブや同好会・チームに加入したいと思いませんか。(○はい/×) n=2,458

- 1 加入したいと思う 476(19.4)
- 2 加入したいとは思わない 1,964(79.9) → 次ページの問5へお進みください

【加入したいと思う】方におうかがいします。】

SQ4 それほどどのようなスポーツクラブや同好会・チームですか。(○はい/×) n=476

- 1 地域住民が中心となったクラブ・同好会・チーム 172(36.1)
- 2 民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ 181(38.0)
- 3 学校のOB・OGなどが中心となったクラブ・同好会・チーム 27(5.7)
- 4 職場の仲間を中心としたクラブ・同好会・チーム 34(7.1)
- 5 友人・知人が中心のクラブ・同好会・チーム 218(45.8)
- 6 その他(具体的に: 同好会/部活動/サークル/学校のクラブ・チーム) 1(0.2)

n=4

スポーツライフアンケート2016 121

【全員におうかがいします。】

スポーツのテレビ観戦

問10 あなたは、過去1年間にテレビで観戦したスポーツの試合を観戦したことがありますか。(○はひとつ)  
※ただし、インターネットによる観戦は含みません。 n=3,000

1 あり 2,640(88.0) 2 な い 360(12.0) → SQ1[B]へお進みください  
 【スポーツを観戦したことが「ある」方におうかがいします。】  
 SQ1 あなたが過去1年間にテレビで観戦したスポーツ種目は何ですか。  
 【A】のスポーツ種目のあてはまる番号すべてに○印をつけ、種目ごとに【B】にお答えください。また、種目名がない場合は【その他】に具体的に記入してください。  
 <全員の方に>

n=2,640

スポーツ種目名	A 過去1年間に テレビ観戦した種目 (あてはまる番号 すべてに○)
プロ野球(NPB)	1 1,615(61.2)
メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	2 592(22.4)
高校野球	3 1,451(55.0)
アマチュア野球(大学、社会人など)	4 94(3.6)
Jリーグ(11,12,13)	5 759(28.8)
海外プロサッカー(欧州、南米など)	6 420(15.9)
サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	7 1,358(51.4)
サッカー日本女子代表試合(なでしこ杯)	8 926(35.1)
プロバスケットボール(Bリーグ)	9 328(12.4)
プロバスケットボール(海外)	10 105(4.0)
海外プロアイスホッケー(NHLなど)	11 104(3.9)
バスケットボール(高校、大学、NBL、WJBLなど)	12 65(2.5)
ハレーボ-日本代表試合(龍神NIPPON)	13 1,055(40.0)
ハレーボ-日本女子代表試合(のびNIPPON)	14 1,282(48.6)
ハレーボ-男子(高校、大学、VIリーグなど)	15 186(7.0)
ハレーボ-女子(高校、大学、VIリーグなど)	16 1,139(43.1)
マラソン・駅伝	17 1,295(49.1)
ラグビー	18 571(21.6)
プロレス	19 1,096(41.5)
プロゴルフ	20 705(26.7)
フィギュアスケート	21 1,387(52.5)
格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	22 596(22.6)
F1/ NASCARなど自動車レース	23 201(7.6)
その他(卓球)	24 28(1.1)
その他(水泳)	25 21(0.8)

無回答 5(0.2)

n=3,000

今後、テレビ観戦してみたい種目(現在観戦していない種目も含めて) (あてはまる番号すべてに○)	B 今後、テレビ観戦してみたい種目(現在観戦していない種目も含めて) (あてはまる番号すべてに○)
1	1,440(48.0)
2	592(19.7)
3	1,303(43.4)
4	108(3.6)
5	663(22.1)
6	434(14.5)
7	1,248(41.6)
8	806(26.9)
9	317(10.6)
10	154(5.1)
11	150(5.0)
12	87(2.9)
13	929(31.0)
14	1,116(37.2)
15	197(6.6)
16	972(32.4)
17	1,117(37.2)
18	503(16.8)
19	975(32.5)
20	607(20.2)
21	1,251(41.7)
22	548(18.3)
23	257(8.6)
24	29(1.0)
25	23(0.8)

99 テレビ観戦したい種目はない 330(11.0)

【全員におうかがいします。】

スポーツボランティア

問11 スポーツにかかわるボランティア活動についておうかがいします。

ここでいうボランティア活動とは、報酬を目的としないで、自分の労力・技術・時間を提供して地域社会や個人・団体のスポーツ推進のために行う活動のことを意味します。ただし、活動に必要な交通費等の実費程度の金額の取り取りは報酬に含めません。

あなたは、過去1年間に何らかのスポーツにかかわるボランティア活動を行ったことがありますか。  
 (○はひとつ) n=3,000

1 あり 2,021(67.4) 2 な い 2,797(93.2) → 次ページの問12へお進みください  
 無回答 1(0.0)

【スポーツボランティア活動を行ったことが「ある」方におうかがいします。】

SQ1 過去1年間にあなたが行ったことのあるスポーツボランティア活動は何ですか。  
 あてはまる番号すべてに○印をつけ、活動ごとに【B】にお答えください。

ボランティア活動の種類 n=202	A 過去1年間に 行った活動 (あてはまる番号すべてに○印)	B この1年間に何回くらい 行いましたか。 (回数を記入)
日常の 練習	1 60(29.7)	年 43.1 回
スポーツの指導	2 46(22.8)	年 10.6 回
スポーツの審判	3 72(35.6)	年 28.5 回
団体・クラブの運営や世話	4 20(9.9)	年 12.4 回
スポーツ施設の管理の手伝い	5 3(1.5)	年 1.3 回
その他	6 32(15.8)	年 7.5 回
大会・イベントの運営や世話	7 100(49.5)	年 2.7 回
その他	8 2(1.0)	年 6.5 回
スポーツの審判	9 4(2.0)	年 1.7 回
大会・イベントの運営や世話	10 13(6.4)	年 3.2 回
その他	11	年 回

次ページの問12へお進みください

【全員におうかがいします。】

あなたご自身のことについておうかがいします。

F1 年齢 49.3 歳 n=3,000 F2 性別 1 男 1,491 (49.7) 2 女 1,509 (50.3) n=3,000

F3 身長 163.0 cm n=2,993 F4 体重 60.2 kg n=2,938

F5 あなたは現在、結婚していますか。(○はひとつ) n=3,000

1 未婚(結婚したことはない) 503 (16.8) 2 既婚(事実婚を含む) 737 (24.6) 3 離別 104 (3.5) 4 死別 114 (3.8) 無回答 69 (2.3)

F6 家族構成。現在一緒に住んでいるご家族の番号に○印をつけてください。(○はいくつでも) n=3,000

1 父 521 (17.4) 5 祖父 48 (1.6) 8 孫 ( 2.0 人) 134 (4.5)  
 2 母 734 (24.5) 6 祖母 93 (3.1) 9 一人暮らし 208 (6.9)  
 3 配偶者 2,156 (71.9) 7 兄弟姉妹 ( 1.4 人) 10 その他 ( 1.3 人) 93 (3.1)  
 4 子ども ( 1.8 人) 1,633 (54.4) 264 (8.8)  
 (1番下の括弧の年齢: 16.9 歳) 無回答 5 (0.2)

F7 あなたの主な職業はこの中のどれにあたりますか。(○はひとつ)

自営業	1 農林漁業(専木職、退園園を含む)	38 (1.3)
	2 施工サービス業(小売店、飲食店、理髪店、団体の経営者、個人営業主など)	258 (8.6)
	3 その他の自営業(開業医、弁護士事務所経営者、芸術家、非営利団体の役員など)	80 (2.7)
家族従業員	4 農家や個人商店などで自分の家族が経営する事業を手伝っている者	66 (2.2)
	5 管理的職業(官庁、会社の課長以上、ただし経営者を除く)	113 (3.8)
	6 専門的・技術的職業(研究者、教員、技術者、弁護士、病院勤務医師など)	201 (6.7)
勤め人	7 事務的職業(事務系会社員、公務員、営業職など)	310 (10.3)
	8 技師的・労働的職業(大工、運転手、修理工、生業工種作業員など)	323 (10.8)
	9 サービス職業(販売店の店員、寄席、家庭婦、スホーフィインストラクターなど)	206 (6.9)
	10 専業主婦・主夫(パートタイムを指さない)	476 (15.9)
その他	11 パートタイムアルバイト	369 (12.3)
	12 学生	128 (4.3)
	13 無職	428 (14.3)
	14 その他( )	2 (0.1)
		無回答 2 (0.1)

F8 あなたが最後に卒業した学校はどれですか。※差し支えなければお知らせください。(○はひとつ) n=3,000

1 中学校	225 (7.5)	5 大学	643 (21.4)
2 高校	1,327 (44.2)	6 大学院	54 (1.8)
3 短大・高専	315 (10.5)	7 その他の学校[詳細は:]	3 (0.1)
4 専門学校	361 (12.0)	8 答えたくない	72 (2.4)

F9 あなたの二重課の世帯年収(税込)はおおよそどれくらいですか。n=3,000

1 収入はなかった	17 (0.6)	5 400万～500万円未満	321 (10.7)	9 800万～900万円未満	98 (3.3)
2 200万円未満	178 (5.9)	6 500万～600万円未満	261 (8.7)	10 900万～1,000万円未満	72 (2.4)
3 200万～300万円未満	281 (9.4)	7 600万～700万円未満	161 (5.4)	11 1,000万円以上	132 (4.4)
4 300万～400万円未満	275 (9.2)	8 700万～800万円未満	138 (4.6)	12 わからない	684 (22.8)

無回答 382 (12.7)

最後に「あなたのスポーツに対する思い」や「スポーツの普及や発展に対するご意見」などについて、ご自由にお書きください。

長い時間ご協力ありがとうございました

付録 2: スポーツ観戦に関する調査 調査票(株式会社インテージ,2016. 関連部分のみ抜粋.)

Question	Type	CtgNo	Title	Text
Q1	ML		Q1 スポーツ競技経験(MA)	
Q1_1	ML		(1)自分のスポーツ競技経験	(1)あなたご自身が学校の部活動や地域スポーツクラブ・スポーツ少年団などで競技・プレイしたことのあるスポーツ
		Q1_1[1]		1 野球
		Q1_1[2]		2 サッカー
		Q1_1[3]		3 ゴルフ
		Q1_1[4]		4 テニス
		Q1_1[5]		5 ラグビー
		Q1_1[6]		6 バスケットボール
		Q1_1[7]		7 パレーボール
		Q1_1[8]		8 水泳
		Q1_1[9]		9 武道系(柔道、剣道、空手道、弓道など)
		Q1_1[10]		10 その他の競技・スポーツ 具体的に:
		Q1_1[11]		11 スポーツ・運動系の活動経験はない
Q2	ML		Q2 プロスポーツ 興味・関心度	
Q2_4	ML		(4)スタジアム/アリーナ観戦(直近1年)	(4)最近1年以内で、あなたがスタジアム・競技場やアリーナで生観戦したことがあるプロスポーツ
		Q2_4[1]		1 プロ野球(NPB・セパ12球団)
		Q2_4[2]		2 プロ野球(国内の独立リーグ)
		Q2_4[3]		3 プロ野球(日本代表戦)
		Q2_4[4]		4 プロ野球(MLB・メジャーリーグ)
		Q2_4[5]		5 サッカー(Jリーグ)
		Q2_4[6]		6 サッカー(日本代表戦)
		Q2_4[7]		7 サッカー(なでしこリーグ)
		Q2_4[8]		8 サッカー(欧州等の海外リーグ)
		Q2_4[9]		9 ラグビー(トップリーグ)
		Q2_4[10]		10 ラグビー(日本代表戦)
		Q2_4[11]		11 ラグビー(スーパーラグビー等の海外リーグ)
		Q2_4[12]		12 バスケットボール(bjリーグ、NBL)
		Q2_4[13]		13 バスケットボール(NBA)
		Q2_4[14]		14 ゴルフ
		Q2_4[15]		15 相撲(大相撲)
		Q2_4[16]		16 あてはまるものはない
Q12	ML		Q12 プロスポーツ今後の関心・行動意向	
Q12_4	ML		(4)スタジアム/アリーナ観戦	(4)今後、あなたがスタジアム・競技場やアリーナで生観戦したいプロスポーツ
		Q12_4[1]		1 プロ野球(NPB・セパ12球団)
		Q12_4[2]		2 プロ野球(国内の独立リーグ)
		Q12_4[3]		3 プロ野球(日本代表戦)
		Q12_4[4]		4 プロ野球(MLB・メジャーリーグ)
		Q12_4[5]		5 サッカー(Jリーグ)
		Q12_4[6]		6 サッカー(日本代表戦)
		Q12_4[7]		7 サッカー(なでしこリーグ)
		Q12_4[8]		8 サッカー(欧州等の海外リーグ)
		Q12_4[9]		9 ラグビー(トップリーグ)
		Q12_4[10]		10 ラグビー(日本代表戦)
		Q12_4[11]		11 ラグビー(スーパーラグビー等の海外リーグ)
		Q12_4[12]		12 バスケットボール(Bリーグ、2016年秋開幕)
		Q12_4[13]		13 バスケットボール(NBA)
		Q12_4[14]		14 ゴルフ
		Q12_4[15]		15 相撲(大相撲)
		Q12_4[16]		16 あてはまるものはない
Q16	S		Q16 性別	あなたの性別をお答えください。
				1 男性
				2 女性
Q17	N		Q17 年齢	あなたの年齢をお答えください。(回答は半角数字で入力)

付録 3: 調査票(一般社団法人日本バレーボールリーグ機構, 2018. 関連部分のみ抜粋.)

質問番号	ラベル	回答タイプ	選択肢番号	質問文/選択肢		
Q5				それぞれの質問に当てはまるものを全て選択して下さい。あてはまるものがない場合は、「14.該当なし」を選択して下さい。なお、この設問は国内リーグに関するものであり、日本代表チームに関するものではありません。		
	Q5S1		MA	小学生時代に、競技場や体育館などで直接観戦したことがある（前身のリーグを含みます例：日本リーグ）		
		Q5S1_1		1	NPB（男子プロ野球）	
		Q5S1_2		2	Jリーグ（男子プロサッカー）	
		Q5S1_3		3	なでしこリーグ（女子サッカー）	
		Q5S1_4		4	Bリーグ（男子プロバスケットボール）	
		Q5S1_5		5	WJBL（女子バスケットボール）	
		Q5S1_6		6	Vリーグ（男子バレーボール）	
		Q5S1_7		7	Vリーグ（女子バレーボール）	
		Q5S1_8		8	日本ハンドボールリーグ（男女ハンドボール）	
		Q5S1_9		9	Fリーグ（男子フットサル）	
		Q5S1_10		10	トップリーグ（男子ラグビー）	
		Q5S1_11		11	日本卓球リーグ（男女卓球）	
		Q5S1_12		12	S/Jリーグ（男女バドミントン）	
		Q5S1_13		13	左記以外の国内トップリーグの試合	
		Q5S1_14		14	該当なし	
		Q5S2		MA	中学生時代に、競技場や体育館などで直接観戦したことがある（前身のリーグを含みます例：日本リーグ）	
			Q5S2_1		1	NPB（男子プロ野球）
			Q5S2_2		2	Jリーグ（男子プロサッカー）
			Q5S2_3		3	なでしこリーグ（女子サッカー）
			Q5S2_4		4	Bリーグ（男子プロバスケットボール）
			Q5S2_5		5	WJBL（女子バスケットボール）
			Q5S2_6		6	Vリーグ（男子バレーボール）
			Q5S2_7		7	Vリーグ（女子バレーボール）
			Q5S2_8		8	日本ハンドボールリーグ（男女ハンドボール）
			Q5S2_9		9	Fリーグ（男子フットサル）
			Q5S2_10		10	トップリーグ（男子ラグビー）
			Q5S2_11		11	日本卓球リーグ（男女卓球）
			Q5S2_12		12	S/Jリーグ（男女バドミントン）
			Q5S2_13		13	左記以外の国内トップリーグの試合
			Q5S2_14		14	該当なし
		Q5S3		MA	高校生時代に、競技場や体育館などで直接観戦したことがある※在学歴がない場合は、「14.該当なし」を選択して下さい	
			Q5S3_1		1	NPB（男子プロ野球）
			Q5S3_2		2	Jリーグ（男子プロサッカー）
			Q5S3_3		3	なでしこリーグ（女子サッカー）
			Q5S3_4		4	Bリーグ（男子プロバスケットボール）
			Q5S3_5		5	WJBL（女子バスケットボール）
			Q5S3_6		6	Vリーグ（男子バレーボール）
			Q5S3_7		7	Vリーグ（女子バレーボール）
			Q5S3_8		8	日本ハンドボールリーグ（男女ハンドボール）
			Q5S3_9		9	Fリーグ（男子フットサル）
			Q5S3_10		10	トップリーグ（男子ラグビー）
			Q5S3_11		11	日本卓球リーグ（男女卓球）
			Q5S3_12		12	S/Jリーグ（男女バドミントン）
			Q5S3_13		13	左記以外の国内トップリーグの試合
		Q5S3_14		14	該当なし	

質問番号	ラベル	回答タイプ	選択肢番号	質問文/選択肢
Q5S4		MA		大学生時代に、競技場や体育館などで直接観戦したことがある※在学歴がない場合は、「14.該当なし」を選択して下さい
	Q5S4_1		1	NPB（男子プロ野球）
	Q5S4_2		2	Jリーグ（男子プロサッカー）
	Q5S4_3		3	なでしこリーグ（女子サッカー）
	Q5S4_4		4	Bリーグ（男子プロバスケットボール）
	Q5S4_5		5	WJBL（女子バスケットボール）
	Q5S4_6		6	Vリーグ（男子バレーボール）
	Q5S4_7		7	Vリーグ（女子バレーボール）
	Q5S4_8		8	日本ハンドボールリーグ（男女ハンドボール）
	Q5S4_9		9	Fリーグ（男子フットサル）
	Q5S4_10		10	トップリーグ（男子ラグビー）
	Q5S4_11		11	日本卓球リーグ（男女卓球）
	Q5S4_12		12	S/Jリーグ（男女バドミントン）
	Q5S4_13		13	左記以外の国内トップリーグの試合
	Q5S4_14		14	該当なし
Q5S5		MA		学生時代から継続して、1シーズンあたり1回以上は競技場や体育館などで直接観戦している※現在学生の方は、現在のことについてお答え下さい。
	Q5S5_1		1	NPB（男子プロ野球）
	Q5S5_2		2	Jリーグ（男子プロサッカー）
	Q5S5_3		3	なでしこリーグ（女子サッカー）
	Q5S5_4		4	Bリーグ（男子プロバスケットボール）
	Q5S5_5		5	WJBL（女子バスケットボール）
	Q5S5_6		6	Vリーグ（男子バレーボール）
	Q5S5_7		7	Vリーグ（女子バレーボール）
	Q5S5_8		8	日本ハンドボールリーグ（男女ハンドボール）
	Q5S5_9		9	Fリーグ（男子フットサル）
	Q5S5_10		10	トップリーグ（男子ラグビー）
	Q5S5_11		11	日本卓球リーグ（男女卓球）
	Q5S5_12		12	S/Jリーグ（男女バドミントン）
	Q5S5_13		13	左記以外の国内トップリーグの試合
	Q5S5_14		14	該当なし
Q5S6		MA		過去2年間について、1シーズンあたり1回以上は競技場や体育館などで直接観戦している
	Q5S6_1		1	NPB（男子プロ野球）
	Q5S6_2		2	Jリーグ（男子プロサッカー）
	Q5S6_3		3	なでしこリーグ（女子サッカー）
	Q5S6_4		4	Bリーグ（男子プロバスケットボール）
	Q5S6_5		5	WJBL（女子バスケットボール）
	Q5S6_6		6	Vリーグ（男子バレーボール）
	Q5S6_7		7	Vリーグ（女子バレーボール）
	Q5S6_8		8	日本ハンドボールリーグ（男女ハンドボール）
	Q5S6_9		9	Fリーグ（男子フットサル）
	Q5S6_10		10	トップリーグ（男子ラグビー）
	Q5S6_11		11	日本卓球リーグ（男女卓球）
	Q5S6_12		12	S/Jリーグ（男女バドミントン）
	Q5S6_13		13	左記以外の国内トップリーグの試合
	Q5S6_14		14	該当なし

質問番号	ラベル	回答タイプ	選択肢番号	質問文／選択肢	
	Q5S7	MA		過去1年間に、競技場や体育館などで直接観戦したことがある	
		Q5S7_1	1	NPB（男子プロ野球）	
		Q5S7_2	2	Jリーグ（男子プロサッカー）	
		Q5S7_3	3	なでしこリーグ（女子サッカー）	
		Q5S7_4	4	Bリーグ（男子プロバスケットボール）	
		Q5S7_5	5	WJBL（女子バスケットボール）	
		Q5S7_6	6	Vリーグ（男子バレーボール）	
		Q5S7_7	7	Vリーグ（女子バレーボール）	
		Q5S7_8	8	日本ハンドボールリーグ（男女ハンドボール）	
		Q5S7_9	9	Fリーグ（男子フットサル）	
		Q5S7_10	10	トップリーグ（男子ラグビー）	
		Q5S7_11	11	日本卓球リーグ（男女卓球）	
		Q5S7_12	12	S/Jリーグ（男女バドミントン）	
		Q5S7_13	13	左記以外の国内トップリーグの試合	
		Q5S7_14	14	該当なし	
		Q5S8	MA		競技場や体育館などで直接観戦してみたい（これまでに観戦したことがあり、今後も継続して観戦したい場合も選択して下さい）
			Q5S8_1	1	NPB（男子プロ野球）
			Q5S8_2	2	Jリーグ（男子プロサッカー）
			Q5S8_3	3	なでしこリーグ（女子サッカー）
			Q5S8_4	4	Bリーグ（男子プロバスケットボール）
			Q5S8_5	5	WJBL（女子バスケットボール）
			Q5S8_6	6	Vリーグ（男子バレーボール）
			Q5S8_7	7	Vリーグ（女子バレーボール）
			Q5S8_8	8	日本ハンドボールリーグ（男女ハンドボール）
			Q5S8_9	9	Fリーグ（男子フットサル）
			Q5S8_10	10	トップリーグ（男子ラグビー）
			Q5S8_11	11	日本卓球リーグ（男女卓球）
			Q5S8_12	12	S/Jリーグ（男女バドミントン）
			Q5S8_13	13	左記以外の国内トップリーグの試合
			Q5S8_14	14	該当なし
		Q5S9	MA		近い将来（1年以内）に、競技場や体育館などで直接観戦したい（これまでに観戦したことがあり、今後も継続して観戦したい場合も選択して下さい）
			Q5S9_1	1	NPB（男子プロ野球）
			Q5S9_2	2	Jリーグ（男子プロサッカー）
			Q5S9_3	3	なでしこリーグ（女子サッカー）
			Q5S9_4	4	Bリーグ（男子プロバスケットボール）
			Q5S9_5	5	WJBL（女子バスケットボール）
			Q5S9_6	6	Vリーグ（男子バレーボール）
			Q5S9_7	7	Vリーグ（女子バレーボール）
			Q5S9_8	8	日本ハンドボールリーグ（男女ハンドボール）
			Q5S9_9	9	Fリーグ（男子フットサル）
			Q5S9_10	10	トップリーグ（男子ラグビー）
			Q5S9_11	11	日本卓球リーグ（男女卓球）
			Q5S9_12	12	S/Jリーグ（男女バドミントン）
			Q5S9_13	13	左記以外の国内トップリーグの試合
			Q5S9_14	14	該当なし

質問番号	ラベル	回答タイプ	選択肢番号	質問文/選択肢
Q7				それぞれの質問に当てはまる競技種目を選択して下さい。実施していた種目が選択肢にない場合は9または10を、授業以外の運動経験はない場合は11を選択して下さい。なお、複数の種目が該当する場合は、実施期間が最も長かった種目を選択して下さい。
	Q7S1	Q7S1	SA	小学生時代に、学校の部活動または地域のサークルやクラブチームで実施していた
				1 野球
				2 サッカー（フットサルを含む）
				3 バスケットボール
				4 バレーボール
				5 ハンドボール
				6 ラグビー
				7 卓球
				8 バドミントン
				9 左記以外の球技種目
				10 球技を除くスポーツ種目
				11 該当なし/授業以外の運動実施はない
	Q7S2	Q7S2	SA	中学生時代に、学校の部活動または地域のサークルやクラブチームで実施していた※マネージャー、トレーナー等のスタッフとして関わっていた場合も含まます
				1 野球
				2 サッカー（フットサルを含む）
				3 バスケットボール
				4 バレーボール
				5 ハンドボール
				6 ラグビー
				7 卓球
				8 バドミントン
				9 左記以外の球技種目
				10 球技を除くスポーツ種目
				11 該当なし/授業以外の運動実施はない
	Q7S3	Q7S3	SA	高校生時代に、学校の部活動または地域のサークルやクラブチームで実施していた※マネージャー、トレーナー等のスタッフとして関わっていた場合も含まます
				1 野球
				2 サッカー（フットサルを含む）
				3 バスケットボール
				4 バレーボール
				5 ハンドボール
				6 ラグビー
				7 卓球
				8 バドミントン
				9 左記以外の球技種目
				10 球技を除くスポーツ種目
				11 該当なし/授業以外の運動実施はない
				12 在学歴なし
	Q7S4	Q7S4	SA	大学生時代に、学校の部活動またはサークルやクラブチームで実施していた※マネージャー、トレーナー等のスタッフとして関わっていた場合も含まます
				1 野球
				2 サッカー（フットサルを含む）
				3 バスケットボール
				4 バレーボール
				5 ハンドボール
			6 ラグビー	
			7 卓球	
			8 バドミントン	
			9 左記以外の球技種目	
			10 球技を除くスポーツ種目	
			11 該当なし/授業以外の運動実施はない	
			12 在学歴なし	

Q8				それぞれの質問に当てはまる競技を全て選択して下さい。あてはまるものがない場合は、「11.該当なし/わからない」を選択して下さい。
Q8S1		MA		学生時代から継続して月1回以上の頻度で実施している※現在学生の方は、現在のことについてお答え下さい。
	Q8S1_1		1	野球
	Q8S1_2		2	サッカー（フットサルを含む）
	Q8S1_3		3	バスケットボール
	Q8S1_4		4	バレーボール
	Q8S1_5		5	ハンドボール
	Q8S1_6		6	ラグビー
	Q8S1_7		7	卓球
	Q8S1_8		8	バドミントン
	Q8S1_9		9	左記以外の球技種目
	Q8S1_10		10	球技を除くスポーツ種目
	Q8S1_11		11	該当なし/わからない
Q8S2		MA		過去1年間に、月1回以上の頻度で実施した
	Q8S2_1		1	野球
	Q8S2_2		2	サッカー（フットサルを含む）
	Q8S2_3		3	バスケットボール
	Q8S2_4		4	バレーボール
	Q8S2_5		5	ハンドボール
	Q8S2_6		6	ラグビー
	Q8S2_7		7	卓球
	Q8S2_8		8	バドミントン
	Q8S2_9		9	左記以外の球技種目
	Q8S2_10		10	球技を除くスポーツ種目
	Q8S2_11		11	該当なし/わからない
Q8S6		MA		今後実施してみたい（これまでに実施したことがあり、今後も継続して実施したい場合も選択して下さい）
	Q8S6_1		1	野球
	Q8S6_2		2	サッカー（フットサルを含む）
	Q8S6_3		3	バスケットボール
	Q8S6_4		4	バレーボール
	Q8S6_5		5	ハンドボール
	Q8S6_6		6	ラグビー
	Q8S6_7		7	卓球
	Q8S6_8		8	バドミントン
	Q8S6_9		9	左記以外の球技種目
	Q8S6_10		10	球技を除くスポーツ種目
	Q8S6_11		11	該当なし/わからない
Q8S7		MA		近い将来（1年以内）に実施してみたい（これまでに実施したことがあり、今後も継続して実施したい場合も選択して下さい）
	Q8S7_1		1	野球
	Q8S7_2		2	サッカー（フットサルを含む）
	Q8S7_3		3	バスケットボール
	Q8S7_4		4	バレーボール
	Q8S7_5		5	ハンドボール
	Q8S7_6		6	ラグビー
	Q8S7_7		7	卓球
	Q8S7_8		8	バドミントン
	Q8S7_9		9	左記以外の球技種目
	Q8S7_10		10	球技を除くスポーツ種目
	Q8S7_11		11	該当なし/わからない

質問番号	ラベル	回答タイプ	選択肢番号	質問文/選択肢
Q9		SA		ご自身の家族構成についてお答えください。
			1	独身（子ども無）
			2	独身（子ども有）
			3	既婚（子ども無）
			4	既婚（子ども有）
Q10		SA		ご自身の現在の居住地についてお答えください。
			1	北海道
			2	青森県
			3	岩手県
			4	宮城県
			5	秋田県
			6	山形県
			7	福島県
			8	茨城県
			9	栃木県
			10	群馬県
			11	埼玉県
			12	千葉県
			13	東京都
			14	神奈川県
			15	新潟県
			16	富山県
			17	石川県
			18	福井県
			19	山梨県
			20	長野県
			21	岐阜県
			22	静岡県
			23	愛知県
			24	三重県
			25	滋賀県
			26	京都府
			27	大阪府
			28	兵庫県
			29	奈良県
			30	和歌山県
			31	鳥取県
			32	島根県
			33	岡山県
			34	広島県
			35	山口県
			36	徳島県
			37	香川県
			38	愛媛県
			39	高知県
			40	福岡県
			41	佐賀県
			42	長崎県
			43	熊本県
			44	大分県
			45	宮崎県
			46	鹿児島県
		47	沖縄県	

質問番号	ラベル	回答タイプ	選択肢番号	質問文/選択肢
MonitorData		SA		性別
			1	男性
			2	女性
MonitorData		N		年齢(才)
MonitorData		SA		職業
			1	公務員
			2	経営者・役員
			3	会社員(事務系)
			4	会社員(技術系)
			5	会社員(その他)
			6	自営業
			7	自由業
			8	専業主婦(主夫)
			9	パート・アルバイト
			10	学生
			11	その他
			12	無職

## 謝辞

本研究にあたり貴重なデータをご提供いただきました, 公益財団法人笹川スポーツ財団, 株式会社インテージならびに一般社団法人日本バレーボールリーグ機構の関係各位に厚く感謝申し上げます。また, 指導教官として細部にわたりご指導をいただいたスポーツ科学研究科の武藤泰明先生, ならびに副査としてご助言をいただいた松岡宏高先生と作野誠一先生に深謝いたします。論文の執筆にあたっては本学術院の小西真幸先生, 統計分析については人間科学研究科の佐々木康成先生に, 講義のみならず個別のご相談に対してもご指導いただき大変お世話になりました。ここに感謝の意を表します。